SUZUKI

SMILE WAGONR Crème Coordinate

IR資料

2025年6月
スズキ株式会社

目次

1. 中期経営計画 …… 3

2. ＥＳＧ …… 18

環境 …… 21

社会 …… 32

ガバナンス …… 42

3. 足元の業績 …… 47

日本 …… 49

インド …… 50

アジア(インド除く)/ 欧州・その他地域 …… 58

二輪事業 …… 60

2025年3月期決算 …… 62

2026年3月期業績予想 …… 67

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

1. 中期経営計画

本資料では一部のみ掲載しています
詳細は2025年2月20日発表の資料をご参照ください

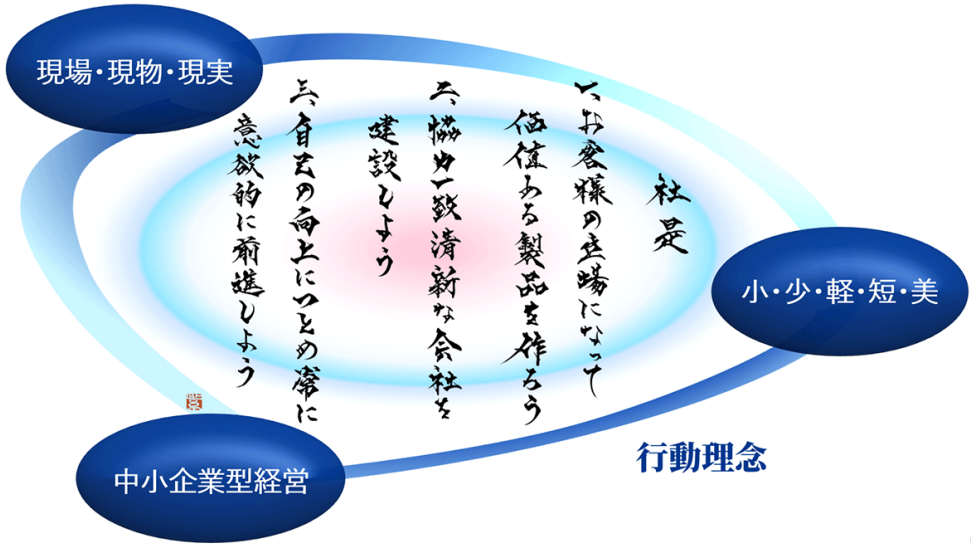
© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

社是・行動理念 ～目指す姿

目指す姿

チームスズキは『生活に密着したインフラモビリティ』を目指す

社是・行動理念（スズキのOS）



コーポレートスローガン

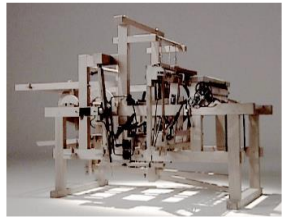
By Your Side

創業の精神

母の織物仕事を楽にしてあげたい

創業者 鈴木道雄

母に贈った第1号機



1910年代の織機（復元）

鈴木式織機製作所

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

経営目標｜考え方

お客様、社会にとって身近で、頼りになる存在であり続けるために「お客様、社会に寄り添い、共に持続的な成長を続け、企業価値を向上させる」ことを基本方針として、経営目標や各戦略を策定

基本方針

持続的な成長によって企業価値を向上させる

方針	経営目標や各戦略への反映
資本コストを上回る価値の創出	•資本コストを意識した指標としてROEを引き続き採用し、当社が認識する株主資本コストを上回る目標を設定 •資本効率性を向上させる財務戦略を実行
長期安定的な経営の実現に向けたステークホルダーとの関係強化	•各ステークホルダーとの関係性を強化する取り組みを推進 •新たな株主還元政策を導入し、中長期保有の株主との関係を強化
持続的な成長のために投資を遂行	•人財強化のため人的資本投資とAIの活用を促進 •販売台数増加や環境対応に向けた設備投資とエネルギー極少化のための技術開発投資を遂行

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

経営目標｜2030年代前半に目指す姿及び2030年度の経営目標

- ステークホルダーと共に成長し、2030年代前半に 営業利益率10.0%以上、ROE 15.0%以上の実現を目指す
- 2030年度の売上収益8兆円、営業利益8,000億円（営業利益率10.0%）、ROE 13.0%の達成を目指し、事業目標や財務目標を設定

2030年代前半に目指す姿

営業利益率	10.0% 以上
ROE	15.0% 以上

中計期間

経営目標（2031年3月期）

売上収益	8兆円
営業利益（率）	8,000億円（10.0%）
ROE	13.0%

事業	販売台数	営業利益
四輪事業	420万台	7,000億円
二輪事業	254万台	500億円
マリン事業	-	350億円
新事業	売上収益：500億円	

財務指標	目標
設備投資（6年間累計）	2兆円
研究開発費（6年間累計）	2兆円
DOE	3.0%

［前提］ 株主資本コスト：10.0%※
為替レート：米ドル140円、ユーロ150円、インドルピー1.70円　※ CAPM（7.9%）と益回り法（10.0% 成長率ゼロ前提)より算出

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

具体的な戦略・取り組み｜技術戦略

- 小・少・軽・短・美の理念に基づき、全ての過程でエネルギーを極少化
- 製造からリサイクルまで 「資源リスクと環境リスクを極少化させる技術」を目指す

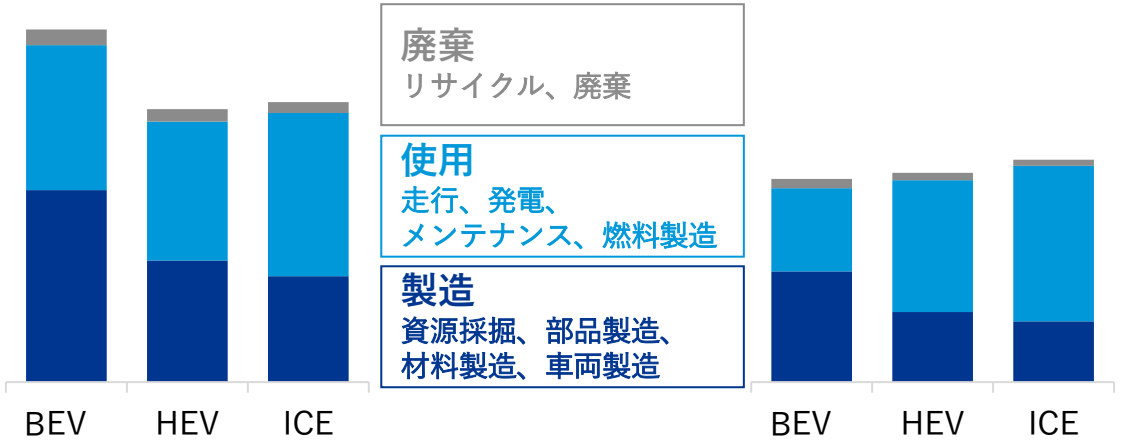
技術哲学

エネルギー極少化　by 小・少・軽・短・美

ライフサイクルにおけるエネルギー消費概念図（BEV/HEV/ICE比較）

非化石燃料による
電気エネルギー普及率 **25%**

非化石燃料による
電気エネルギー普及率 **75%**



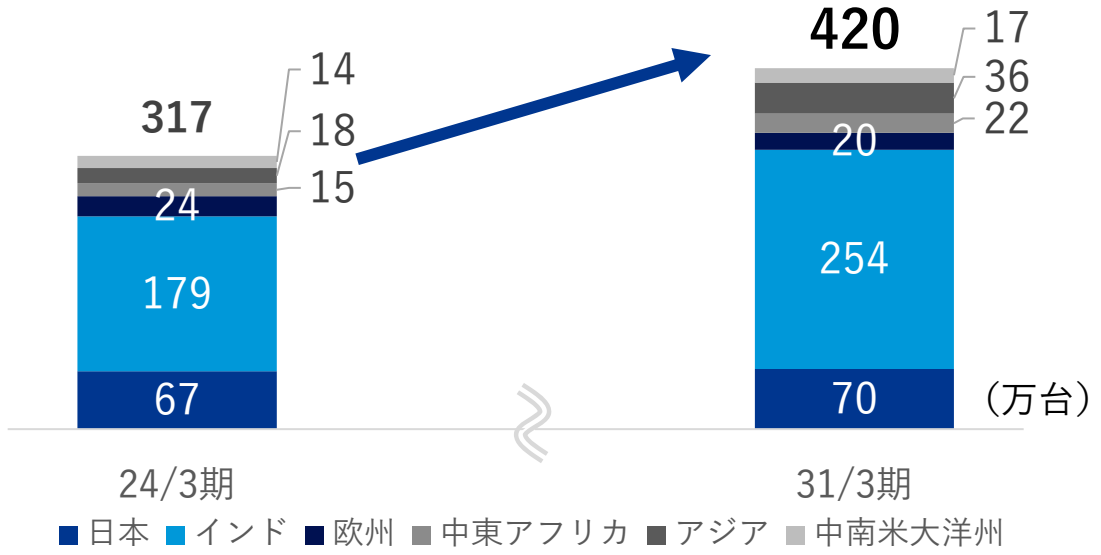
検討条件：走行11万km、その他はスズキ独自で設定

技術戦略 5つの柱

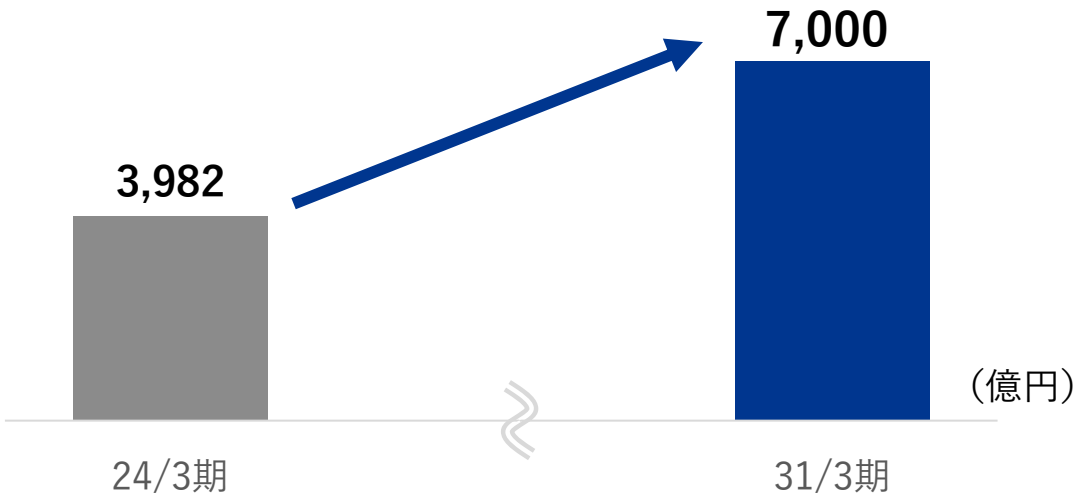
© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

具体的な戦略・取り組み｜四輪

販売台数目標（2031年3月期） 420万台



営業利益目標（2031年3月期） 7,000億円

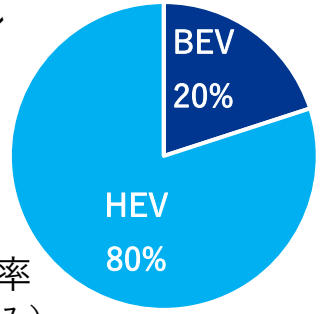


2030年度までの商品計画

※パワートレイン比率は2030年度時点

日本

BEV展開：6モデル



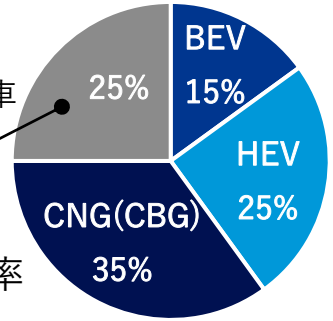
パワートレイン比率
（乗用車のみ）

インド

BEV展開：4モデル

エタノール混合燃料対応車
（FFV、E20※）

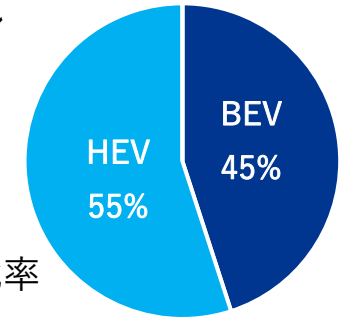
※エタノール20%混合



パワートレイン比率

欧州

BEV展開：4モデル



パワートレイン比率

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

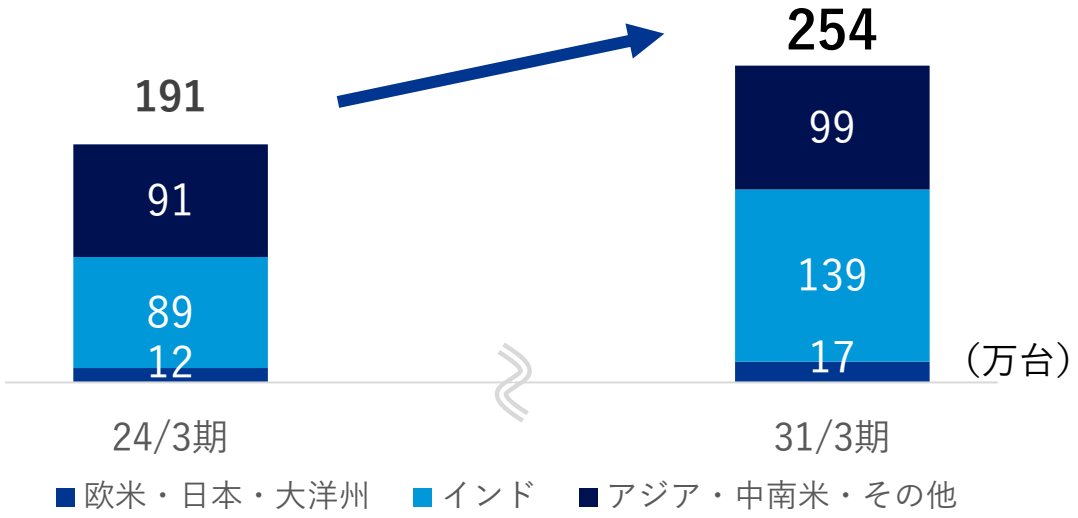
具体的な戦略・取り組み｜二輪

◆妥協しない製品づくりを通じてお客様が求める「価値ある製品」を提供
◆作り手の想いを伝え、お客様の信頼を得て、254万台の販売、営業利益500億円の目標を達成

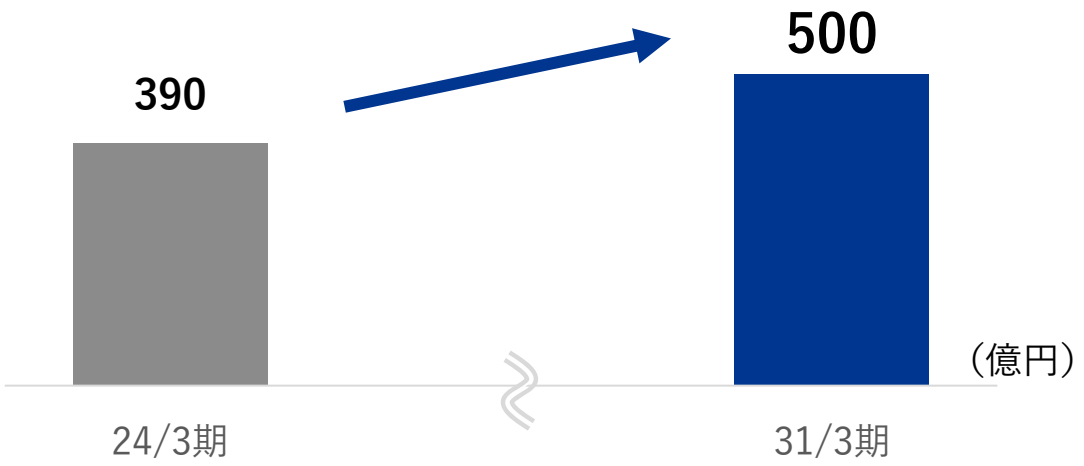
スズキ二輪車の哲学

基本性能（走る/曲がる/止まる）が高次元、高品質でバランスしている価値ある製品
- すべての製品に対し、妥協なく、品質/信頼性/高性能を追求
- 多くのお客様にたくさん使っていただき、お客様の生活をより豊かに

販売台数目標（2031年3月期） **254万台**



営業利益目標（2031年3月期） **500億円**



© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

具体的な戦略・取り組み｜マリン

◆北米市場を中心に「楽しむ」お客様向けに中大型モデルを拡販、アジア市場等の「働く」お客様向けにも環境に優しい4ストローク化を推進し、営業利益350億円を達成

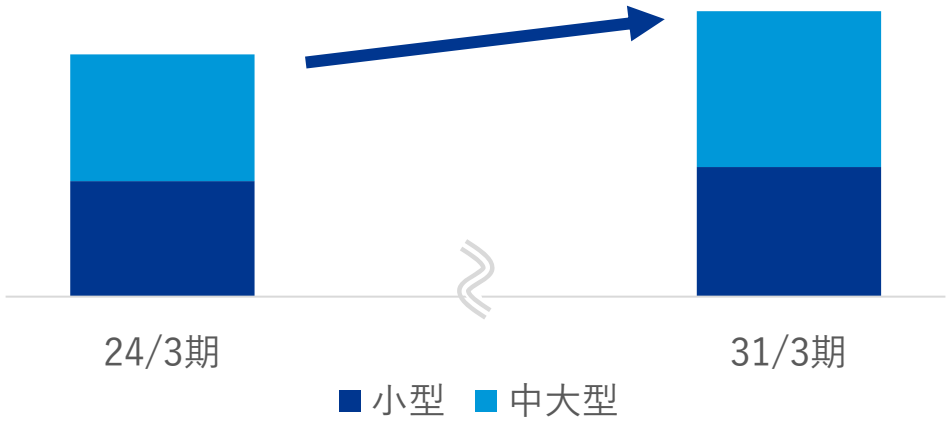
目指す姿

水上の「楽しむ」と「働く」を支える頼れるパートナー

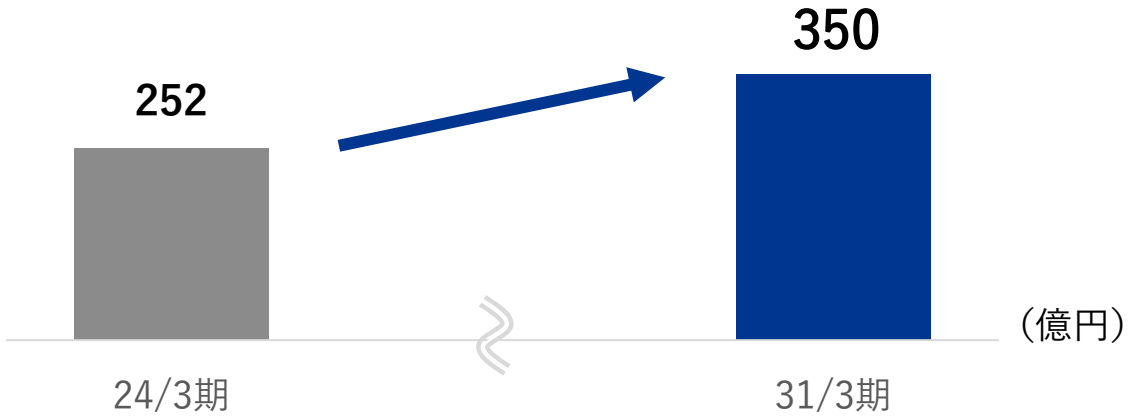
- 水上のお客様にスズキの製品を選んでいただけるよう、耐久性、信頼性に優れた商品と市場に密着したアフターサービスを提供
- 事業を通じて、お客様の生活に深くかかわる水辺の環境をクリーンかつ持続可能なものとして、お客様の生活を支えていく

セグメント別販売台数推移

中大型モデルを拡販（23%増）



営業利益目標（2031年3月期） **350億円**



© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

具体的な戦略・取り組み｜四輪　トヨタとのアライアンス

◆互いに切磋琢磨する競争者であり続けながら、イコールパートナーとしての協業を継続
◆協業を通じて、マルチパスウェイでのカーボンニュートラル社会の実現を目指し、両社が共に成長し続ける

技術領域
- 衝突被害軽減ブレーキなどの先進安全技術
- BEVユニットとプラットフォームの共同開発

生産領域
- スズキ開発機種のグランドビターラをTKM※1 で生産し、インド/中東/アフリカへ供給

®Dentsu Creative　®Toyota Kirloskar Motor Private Ltd.

車両の相互供給
- 各市場（インド/アフリカ/欧州/日本）における車両相互供給※2
  [スズキ→トヨタ]
  e VITARA (共同開発したBEVユニットとプラットフォームでスズキが開発した車両)
  バレーノ、エルティガ、フロンクス、シアズ、セレリオ
  [トヨタ→スズキ]
  ランディ、インビクト、アクロス、スウェイス

※1 TKM：Toyota Kirloskar Motor（インド）
※2 いずれもスズキにおけるモデル名

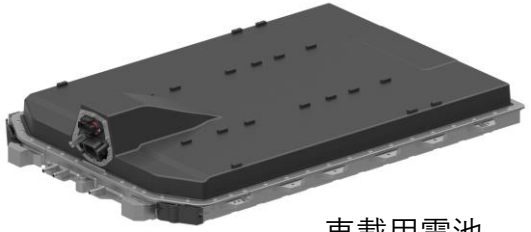
© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

具体的な戦略・取り組み｜電池

◆性能、品質で実績のあるバッテリーをパートナーの協力を得て調達
◆将来の需要拡大に備え、内製化に向け、国産蓄電池の共同開発を検討

調達方針

- 技術戦略である「エネルギー極少化」「バッテリーリーン」「実質有効なバッテリーリユース体制」の実現に向け、下記パートナーを中心に、生産国/地域の実情等を鑑み、最適なバッテリー調達を図る
  - 二輪 BEV用電池：Tata Gotion
  - 四輪 M-HEV用/S-HEV用電池：TDS Lithium-ion Battery Gujarat (TDSG)
  - 四輪 BEV用電池：FinDreams Battery
- インドにおいては、電動化市場の成長に合わせ、更なる現調化を推進



車載用電池

内製化の検討

- 将来に向けての電池技術習得/内製化を目標とし、ELIIY Power 川崎事業所にバッテリーR&Dセンターを開設、国産蓄電池の開発を検討
- 安全性/耐久性に優れ、モビリティ用途と定置用蓄電池の双方に利用できる蓄電池の製品化を検討
- 電池工場の建設及び電池材料の自前調達を検討

定置用蓄電池

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

具体的な戦略・取り組み｜スタートアップ・地域との共創

◆事業領域の拡大に必要な知見や技術獲得のため、スタートアップとの協業に体制を強化し取り組む
◆地域社会とのつながりをより太くし、関係人口を増やすため、本拠地である浜松市やインド地方部のスタートアップや企業を支援し、共に成長する

事業領域拡大に必要な技術や知見の獲得

Suzuki Global Ventures （SGV）
・スズキ本体と密接に連携し、事業戦略の達成をサポート
・既存事業強化～事業領域拡大に必要なスタートアップの探索
・CVCとしての出資、本体側の出資協業に対する支援

横浜研究所
・価値を創造する研究開発

Suzuki R&D India （SRDI）
・インドでの事業領域拡大におけるR&D

Maruti Suzuki INNOVATION
・モビリティ分野における課題解決に取り組むスタートアップの発掘・支援

地域との共存共栄／関係人口増加

Next Bharat Ventures （NBV）
・インドの「次の10億人」の生活向上と農村部の経済発展
・社会起業家のネットワークを拡大し、世の中を変える力を生み出す
・インドと日本をつなぎながら、スズキの関係人口・ファンを増やす

静岡県/浜松市との連携活動
・地元企業や地元スタートアップとの共創を通じた地域の活性化

次世代自動車センター浜松
・地域の中小企業が自動車技術の進化に対応するための支援活動

International Automobile Centre of Excellence （iACE）
・グジャラート州とマルチ・スズキが共同出資する、自動車技術の教育・イノベーション機関

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

具体的な戦略・取り組み｜スタートアップ・地域との共創

◆スズキが目指すインフラモビリティを実践するため、ミッションが異なる2つのコーポレートベンチャーキャピタルを設置し、取り組みを推進する

Suzuki Global Ventures (SGV)
米国：シリコンバレー（2022～）

- 日米に拠点を置く有力VC World Innovation Lab (WiL)の協力を得て運営
- 既存領域からの連続的な進化では難しい新領域の技術や知見獲得を加速、スズキの成長戦略達成をサポート

SGV ―パートナー― WiL

- サステナブルなファンド運営を目的とした投資
- 事業シナジーを目的とした投資
- 投資機会へのアクセスを目的としたファンド投資

代表的な協業企業

LOMBY / GLYDWAYS / SORACOM / SVAngel / Applied EV / SKYDRIVE

Next Bharat Ventures (NBV)
インド：グジャラート、ベンガルール、ハイデラバード（2024～）

- インドにおける社会課題解決に取り組む社会起業家を育成/支援
- スズキを育ててくれたインド社会の更なる発展に貢献
- モビリティを超えてインドの「次の10億人」とつながる

NBV — Next Bharat A SUZUKI INITIATIVE

インパクトファンド	スズキイノベーションセンター	ファンドオブファンズ	ジャパンシナジー
起業家支援プログラムを通じたインパクト起業家への投資と支援とコミュニティ構築	Next Bharatのシンクタンク：Next Billionのためのネットワーク/知識の蓄積	インパクト投資を持続させるための財務的/戦略的リターンの創出	日本の強みを活かしたインパクト起業家支援と、日印間の価値共創

SUZUKI

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

財務戦略｜キャピタル・アロケーション（2026年3月期）

収益性・効率性を改善させ投資資金を最大限確保し、積極的に成長投資を実行する
企業価値を最大化できるように、外部状況に応じて柔軟に経営資源を適所適材に振り分ける

収益性・効率性の改善（2026年3月期）

8,000億円

中期経営計画期間
（2026年3月期-2031年3月期累計）（億円）

Cash-In	Cash-Out
研究開発費調整後営業CF※ 55,000	配当 6,000
	設備投資 20,000
	研究開発費 20,000
	電池関連投資
外部調達 等	その他 自己株取得/CVCへの追加出資等

※研究開発費調整後営業CFは、
研究開発費を差し引く前の営業CF
（営業CF＋研究開発費）

配当（2026年3月期）

868億円（次期配当予想：45円）

- 長期的な成長を通じた安定的な累進配当を実現するために、DOEを導入
- DOE3.0%を目安とし、株主還元を強化して企業価値を向上

成長投資（2026年3月期）

【設備投資】3,800億円

（国内）
- 湖西新塗装工場

（インド）
- カルコダ第2ライン
- グジャラート第4ライン
- グジャラート新工場（土地）

【研究開発費】3,000億円
- エネルギー極少化に向けた技術開発のうち、電動化/SDVライトに約5割を使用予定

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

財務戦略｜成長実現への投資計画（2026/3期～2031/3期）

設備投資	（億円）
生産能力の増強	7,500
新機種投入に向けた生産準備	5,000
カーボンニュートラル/SSF※	1,500
品質対策/合理化	2,500
販売拠点/実験設備 等	3,500
計	20,000
（内、インド	**12,000）**

研究開発	（億円）
エネルギー極少化に向けた技術開発	**13,500**
将来技術開発/新事業領域	1,000
基盤投資（業務改善DX 等）	5,500
計	20,000

※ SSF：スズキスマートファクトリー

インド設備投資 12,000億円

- 生産能力の増強（新工場建設含む） 5,500億円
- 新機種投入に向けた生産準備 4,000億円
- カーボンニュートラル/SSF 1,000億円
- 品質対策/合理化 1,500億円

カルコダ工場　※2025年稼働開始

エネルギー極少化に向けた技術開発 13,500億円

- 電動化/SDV right 11,000億円
- 内燃機関（熱効率向上/FFV/CN燃料対応） 1,000億円
- 車両技術/軽量化技術/易分解設計/サーキュラエコノミー 1,500億円

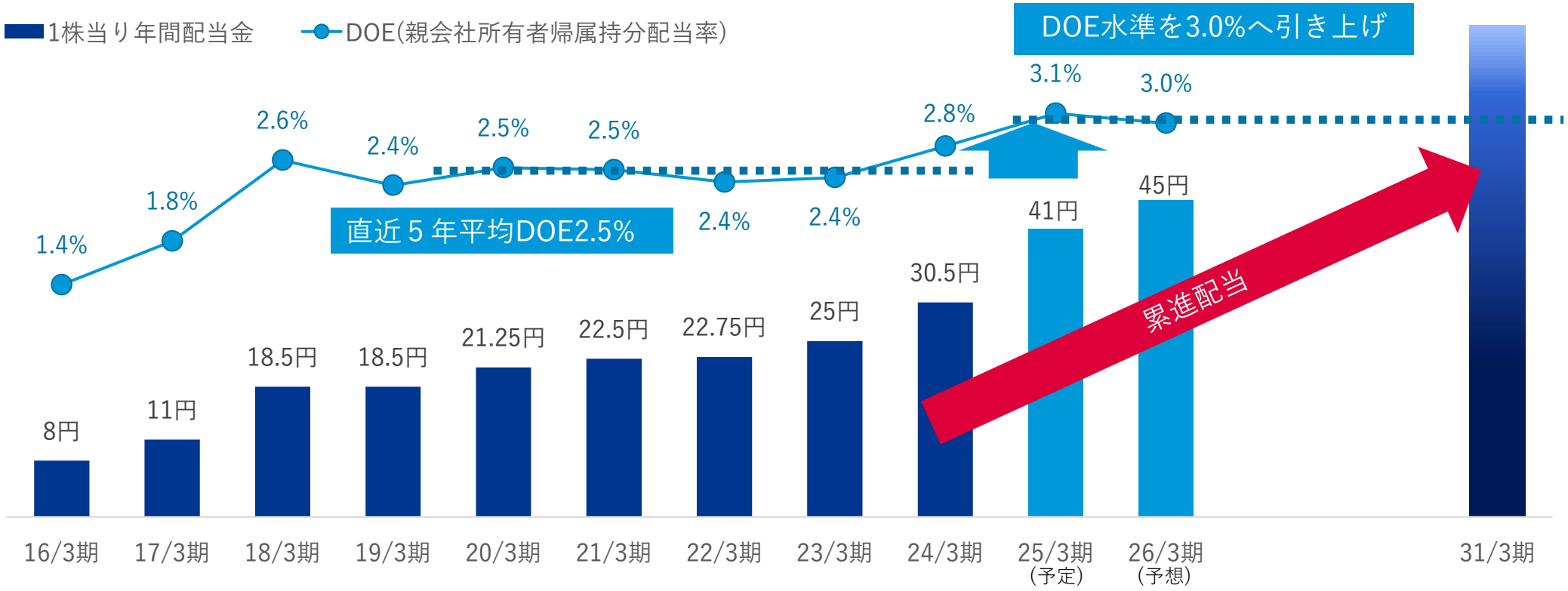
© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

財務戦略｜株主還元方針

長期保有の株主の皆様、特に、2030年度に向けた挑戦を応援していただけるスズキファンの皆様にお応えしたく、株主還元は配当を中心に実施するとともに、配当による還元を強化

- 配当方針：累進配当 … 利益連動ではなく安定的・継続的に実施
- 配当指標：新たにDOEを採用…DOE水準を3.0%へ引き上げ

自己株取得の実施については、資本効率(ROE)や株価水準(PBR)など総合的に検討し判断



（ご参考）DOE＝1株当たり配当金÷（(期首１株当たり親会社所有者帰属持分＋期末１株当たり親会社所有者帰属持分)÷２）
なお、親会社所有者帰属持分から、その他の資本の構成要素は除く

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

2. ＥＳＧ

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

「統合報告書」 「サステナビリティデータブック」を公開

リリース　日本語版

リリース　日本語版

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

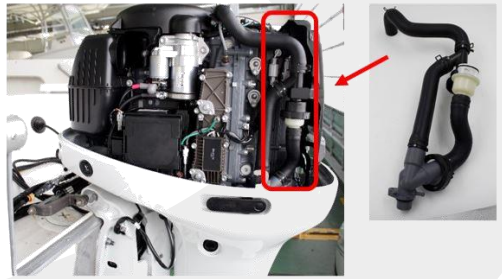
スズキが取り組む社会課題の解決

環境負荷の小さなクルマの普及
高品質で安価な移動手段の提供

海外展開
社会的・経済的な発展に貢献

福祉機器の普及
幅広いお客様に移動機会提供

マイクロプラスチック回収装置
いつまでも美しい海を守る



CJP※参画
輸送業界の課題解決と
カーボンニュートラル社会の実現

コネクテッド技術の進化
より安全でより楽しい運転体験へ

SUZUKI connect

予防安全技術の進化
交通事故で悲しむお客様を減らす

サポカーS ワイド Safety Support Car S

AEBS2 衝突被害軽減ブレーキ 国土交通省認定

PMPD ペダル踏み間違い急発進抑制装置 国土交通省認定

※商用事業プロジェクト「Commercial Japan Partnership」

SUZUKI

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

ESG｜CO_2削減目標

- 「スズキ環境ビジョン2050/マイルストーン2030」達成に向け、バックキャストで「スズキ環境計画2025」に取り組む リリース
- 今後のカーボンプライシングや炭素税の動きに注視が必要

●製品からのCO_2の削減

製品CO_2削減目標　　注.　数値は2010年度比削減目標

	環境計画2025	ﾏｲﾙｽﾄｰﾝ2030	環境ﾋﾞｼﾞｮﾝ2050
四　輪 (Well to Wheel)	▲30%	▲40%	▲90%
二　輪	▲15%	-	-
船外機	▲15%	-	-

- 電動化（HEV、EV等）
- 軽量化
- CNG車両の販売拡大
- エタノール混合燃料車の販売拡大

●事業活動におけるCO_2の削減

事業活動におけるCO_2削減目標　　注.　数値は2016年度比削減目標

	環境計画2025	ﾏｲﾙｽﾄｰﾝ2030	環境ﾋﾞｼﾞｮﾝ2050
生産活動CO_2	▲25%※1	▲45%※3	▲80%※3
その他の事業活動	-		
物流活動CO_2	▲9%※2	-	-

- 工場及び事業所の省エネ推進
- CO_2排出量の見える化
- 太陽光発電の拡大
- 鉄道輸送の利用促進（モーダルシフト） リリース
- サプライチェーンへの横展開

※1 生産台数当たりCO_2排出量　※2 売上高当たりCO_2排出量　※3 販売台数当たりCO_2排出量

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

ESG｜HEV・CNG搭載車の販売状況

- 2024年度のスズキ販売における、HEVとCNG車を合わせた比率は50.7%
- インドではHEV台数が減少した一方で、CNG車が増加
  将来的なバイオガスの活用も含め、カーボンニュートラル達成に向け全方位戦略が浸透中

四輪ハイブリッドシステム・CNG搭載車販売台数推移　（千台）

	'24/4-'25/3			'23/4-'24/3			増減		
		搭載台数	構成比		搭載台数	構成比		搭載台数	構成比
日本	718	406	56.6%	674	358	53.1%	+44	+48	+3.5pt
インド	1,795	866	48.2%	1,794	749	41.8%	+1	+117	+6.5pt
HEV		246	13.7%		266	14.8%		▲20	▲1.1pt
CNG		620	34.5%		483	26.9%		+137	+7.6pt
欧州	220	210	95.3%	236	214	90.8%	▲16	▲4	+4.5pt
その他	411	112	27.2%	464	41	8.8%	▲53	+71	+18.4pt
合計	3,144	1,594	50.7%	3,168	1,362	43.0%	▲24	+232	+7.7pt

※日本、欧州、その他地域はハイブリッド車のみ。その他地域のハイブリッド車販売台数は日本、インドからの輸出台数。

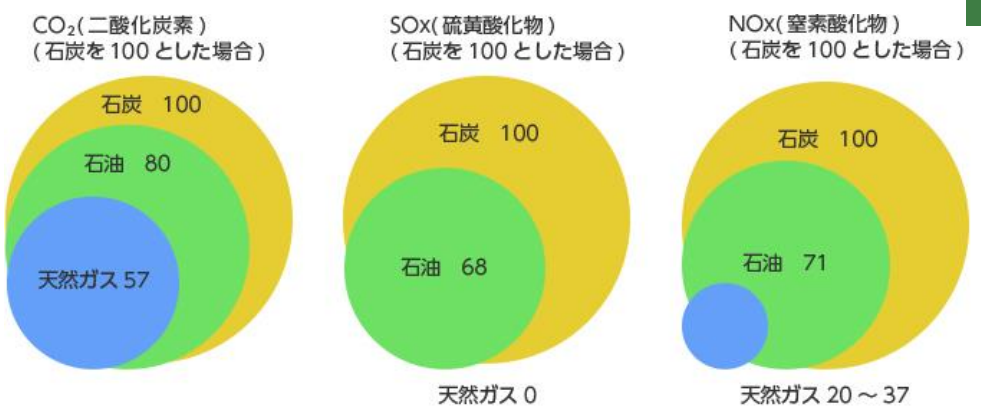
Mild hybrid system

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

ESG｜インドでのCNG車（圧縮天然ガス車）の展開

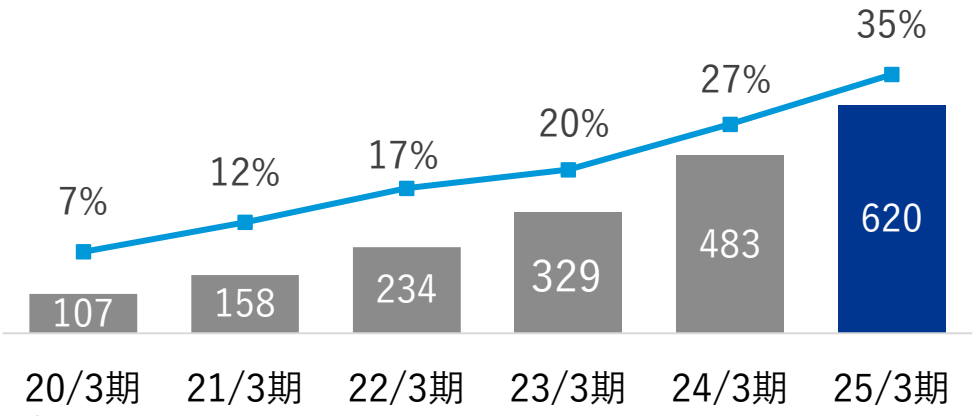
- 低価格で低CO_2排出のCNG車を豊富にラインナップ
- 商用車含む全18車種中14車種にCNG仕様を設定（25年4月23日現在）
- 乗用CNG車のマルチスズキシェアは71%（25/3期）
- インド政府もカーボンニュートラル達成に向けてCNG車の活用を掲げる
- CNGスタンド数は6,456カ所（24年2月時点）
  政府公約では2030年までに17,500のCNGスタンドを設置すると発表

燃焼時の生成ガス量比較



出所…一般社団法人日本ガス協会ホームページ（https://www.gas.or.jp/tokucho/）

インドでのマルチスズキCNG車の販売台数（千台）
マルチスズキ販売車に占めるCNG車比率（%）



CNG車とガソリン車の比較例
（ワゴンR LXI 5MT比較）

	末端価格	燃費	燃料価格	1万キロ走行時	
				燃料代	CO_2排出量
ｶﾞｿﾘﾝ車	564.5千Rs	24.35km/L	94.77Rs/L	39千Rs	974kg
CNG車	654.5千Rs	33.47km/kg	76.09Rs/kg	23千Rs	819kg
差	+90.0千Rs	-	-	-16千Rs	-155kg
			差異率	-42%	-16%

注．末端価格　… 25年4月23日現在、燃料価格…25年4月23日デリー価格
CO_2排出量　… インド電力省 "SO 1072E dt 23rd April 2015"に基づき算出

ワゴンRのトランクに
搭載のCNGタンク

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

ESG｜インドでのバイオガス事業　1/2

- 2022年8月　インド政府関係機関のNDDB※1とバイオガス実証事業を実施することで合意、覚書締結　リリース
- 2022年10月　合同会社富士山朝霧Biomassへ出資　リリース
- 2023年9月　バイオガス生産プラントの設置についてNDDB、Banas Dairy社、スズキ(SRDI※2)の3者で合意
  2025年より順次４つのバイオガス生産プラントを設置（予定投資額は合計23億ルピー）　リリース
- 2024年4月　バイオガス事業本部を新設

＜バイオガス事業の全体像＞

従来：大気中のCO2
⇨ 牧草（光合成）
⇨ 牛の餌
⇨ 糞尿
⇨ メタンが大気中に放出
メタンは温室効果がCO_2の28倍も高い

計画：牛糞(資源)を回収・バイオガス精製
⇨ 自動車燃料に使用

10頭の1日の牛糞 ≒ 1台の1日の燃料

SUZUKI

※1 National Dairy Development Board（全国酪農開発機構）　※2 Suzuki R&D Center India Private Limited

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

ESG｜インドでのバイオガス事業　2/2

2024年7月

NDDB、Banas Dairy社、スズキ(SRDI)の3者間で以下について覚書を締結し基本合意

リリース

インドで5つ目となるバイオガス生産プラントの設置

- 3者はグジャラート州バナスカンタ地域にて、2025年より順次4つのバイオガス生産プラントの設置に向けて取り組んでいる
- 5つ目のバイオガス生産プラントを設置することに基本合意

農村向けモビリティサービスの実証

- マルチ・スズキのCNG車にバイオガス燃料を活用し、農村地域にお住まいの方へ手の届きやすいクリーンな移動の機会を提供することを目指す。この取り組みをまずバナスカンタ地域内で開始

2024年10月

新たなバイオガス生産プラント設置で基本合意

リリース

- Amul Dairy（グジャラート州アナンド）とDudhsagar Dairy（同州メーサナ）の2つの乳業組合とそれぞれ合意
- グジャラート州におけるバイオガス事業を拡大

2024年12月

バイオガス・プラントのインド全国展開に向けてNDDB子会社（NDDB Mrida Limited）に出資

リリース

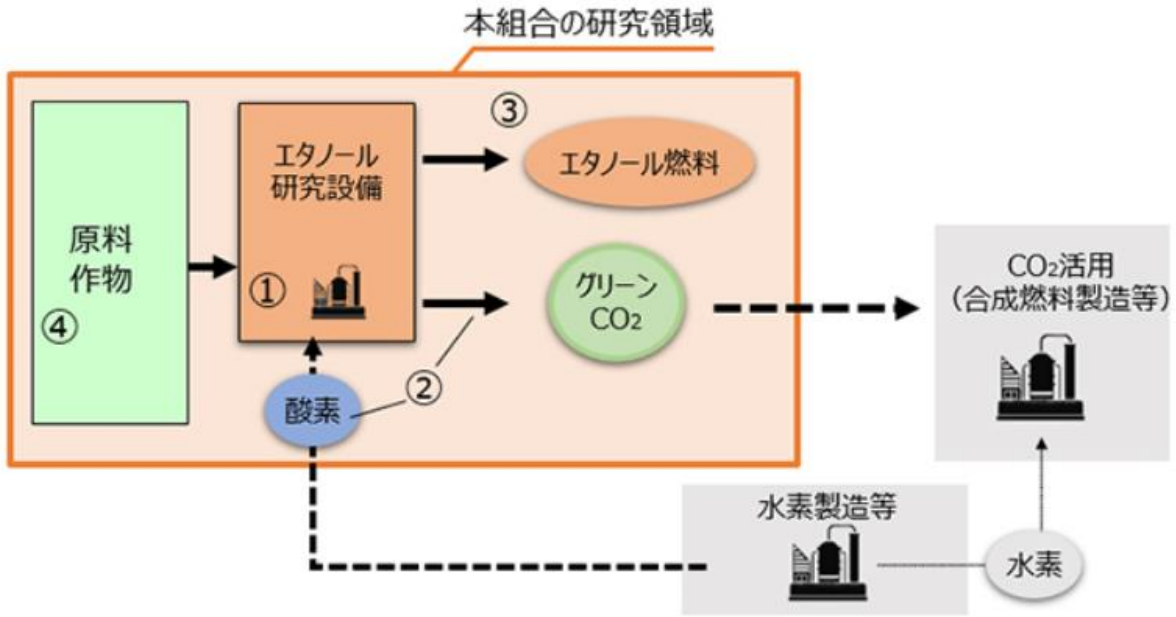
© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

ESG｜「次世代グリーンCO_2燃料技術研究組合」に参画

- 「次世代グリーンCO_2燃料技術研究組合」に参画
  - ENEOS、スズキ、SUBARU、ダイハツ、トヨタ、豊田通商による組合（2022年7月1日設立）
  - 燃料を「つくる」プロセスでの効率化を研究するため
  - カーボンニュートラル社会実現のため、バイオマスの利用、生産時の水素・酸素・CO_2を最適に循環させて効率的に自動車用バイオエタノール燃料を製造する技術研究を進める
  - 2022年10月、本研究組合は福島県大熊町と企業立地に関する基本協定を締結 リリース
  - 2023年3月、本研究組合へマツダが参画 リリース

リリース

- 具体的な研究領域
  ①エタノールの効率的な生産システムの研究
  ②副生酸素とCO_2の回収・活用の研究
  ③燃料活用を含めたシステム全体の効率的な運用方法の研究
  ④効率的な原料作物栽培方法の研究



© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

ESG｜リサイクルの取組み　日本・インド

●日本

・自動車リサイクル法に従い、使用済み自動車より発生するシュレッダーダスト（ASR ※）・エアバッグ類・フロン類の三品目を引き取り再資源化
・車両換算したリサイクル実効率は2024年度で99.4%
・使用済みリチウムイオン電池に関して、各自動車OEMと協力し回収/リサイクル体制を整備

●インド

・使用済みリチウムイオン電池の回収/リサイクルへの取組み
・使用済み車両の適正処理および解体・リサイクルを行う、マルチスズキと豊田通商の合弁会社が2021年11月に稼働開始 リリース
・その第二工場となる車両解体・リサイクル工場の建設について2022年3月にインド・グジャラート州と覚書を締結、2025年の稼働を目指す リリース
・スクラップインセンティブ制度については政府内で検討段階

※登録料/道路税については以下の通り
登録料…新車登録料の免除、15年以上超過した車両は更新料の引き上げなど（2022年4月1日適用開始）
道路税…新車購入者に最大25%割引など（道路交通省による提案段階）

※ Automobile Shredder Residue：自動車破砕残さ

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

ESG｜インドでの再エネ活用

●インドでの再生可能エネルギー由来の電力使用拡大 リリース

- 2022年5月、SMG※1はスズキグループとして初めて、オフサイトコーポレートPPA※2の仕組みを利用し再エネ由来電力の調達を開始
  - ・風力と太陽光のハイブリッド型発電設備を、インド再エネ事業者大手ReNew Power Private LimitedがSMG専用として設置
  - ・発電出力17.6MW
  - ・CO_2削減効果は年間59千トンを見込む
- 2021年9月、マルチスズキはマネサール工場敷地内の太陽光発電設備（20MW）の拡張を行い、発電出力を26.3MWに拡大
  - ・この拡張によるCO_2削減量は年間20千トンを見込む

SMG向けの発電施設（ReNew社提供）

●NEDO※3国際実証事業（実証要件適合性等調査）の採択 リリース

- スズキは㈱やまなしハイドロジェンカンパニーと共同で、NEDOが公募した『2022年度「エネルギー消費の効率化等に資する我が国技術の国際実証事業（実証要件適合性等調査）」』に、「インドの工場における効率的な熱運用を実現するための水素技術等実証要件適合性調査（インド・ハリヤナ州）」を提案し、採択を受けた
- 再エネ導入が進むインドにおいて、その余剰電力を利用し、パワー・ツー・ガス（P2G）システムによって水素製造を行い、工場内における最適な熱運用システムの構築の可能性を検討

マネサール工場のモータープールの頭上に設置したソーラーパネル

※1 Suzuki Motor Gujarat Private Limited　※2 Power Purchase Agreement（電力購入契約）
※3 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

ESG｜二輪事業の取組み　1/2

● Bharat Mobility Global Expo 2025にてEVスクーターを含む二輪車3車種を発表

リリース

新型「e-ACCESS」

- スズキの二輪車におけるBEV世界戦略車第一弾
- 2025年3月より生産、2025年4月よりインドで販売開始※
- その後、各国に順次輸出開始予定

新型「e-ACCESS」

新型「ACCESS」

新型「ACCESS」

- スズキのインドにおける販売台数No.1の全面改良モデル
- 2025年1月よりインドで販売開始、その後各国に順次輸出開始予定

「GIXXER SF 250」

「GIXXER SF 250」

- スズキ独自の油冷エンジンを搭載した250ccロードスポーツバイク
- 今回、新たにバイオエタノール85%までの混合燃料に対応した仕様を追加
- 植物を原料とするバイオエタノール燃料を使用することで従来の化石燃料に比べてCO_2削減に貢献
- 2025年1月よりインドで販売開始

※2025年1月発表時点

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

ESG｜二輪事業の取組み　2/2

● 電動二輪車用共通バッテリーのシェアリングサービス　Gachaco

- 2022年4月、スズキ、ENEOS、ホンダ、カワサキ、ヤマハ発動機の5社は、電動二輪車の共通仕様バッテリーのシェアリングサービス提供と、シェアリングサービスのためのインフラ整備を目的とする「株式会社Gachaco(ガチャコ)」を設立　リリース
- 電動二輪車用共通仕様バッテリーのシェアリングサービスを提供することにより、循環型社会の実現に貢献していく
- Gachacoは2022年10月より、電動二輪車の共通仕様に適合したバッテリーのシェアリングサービスを東京都から開始
- スズキは2023年4月より、電動スクーター「e-BURGMAN」を使用した実証実験を東京都内で実施　リリース

実証実験用電動スクーター「e-BURGMAN」

●電動アシスト自転車のバッテリー、駆動ユニットを使用した電動化

- 電動アシスト自転車のバッテリー、駆動ユニットを使用した「e-PO（イーポ）」と「e-choinori（イーチョイノリ）」をJAPAN MOBILITY SHOW 2023に参考出品

リリース

「e-PO（イーポ）」

「e-choinori（イーチョイノリ）」

●鈴鹿8時間耐久ロードレースに参戦

- 2024年7月19日～21日、鈴鹿8時間耐久ロードレースに「チームスズキCNチャレンジ」として、社内で選抜したメンバーを中心に構成されたチーム体制で参戦し、8位で完走
- スズキは環境性能技術の開発加速を目的として、40%バイオ由来のFIM（国際モーターサイクリズム連盟）公認サステナブル燃料をはじめ、タイヤやオイルなどにサステナブルアイテムを採用

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

ESG｜マリン事業の取組み

● 3つのコンセプトの下、“SUZUKI CLEAN OCEAN PROJECT”を世界展開

1. 世界清掃活動

- 2010年～2025年3月の累計参加者数 約23,000名

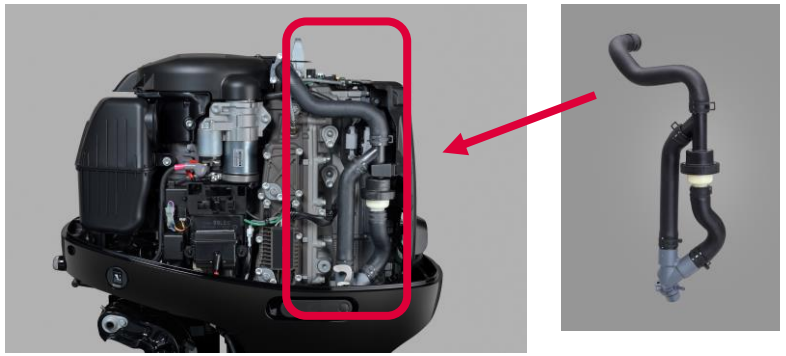
2. プラスチック梱包材の削減活動

- 2020年10月～2025年3月の累計プラスチック削減重量 約112トン
- 船外機の完成品梱包の緩衝材に使用する発泡スチロールの代替材として「Green Planet®」を採用 リリース

3. 海洋マイクロプラスチックの削減活動

- マイクロプラスチック回収装置を開発 リリース
- 2022年7月よりDF140BG、DF115BG、DF140B、DF115B、DF100Cの5機種に標準装備し、生産を開始 リリース
- 静岡大学とタンパク質のプラスチック吸着特性を活かしたマイクロプラスチックの判別技術に関する共同研究を開始 リリース

マイクロプラスチック回収装置



● アメリカにてマリン用サステナブル燃料の試験導入を開始 リリース

- 当社子会社のスズキマリンUSA、サステナブル燃料の幅広い普及を目指すプロジェクトに参画

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

ESG｜人への投資（人事制度改革）

人事制度の全面刷新

- 2024年4月より人事制度を全面的に刷新、「**個の成長**」**の加速**と「**個の稼ぐ力**」**を強化** リリース

1. 職能資格制度の導入

① 各職系・階層ごとの役割と社員一人ひとりの職務遂行に必要な能力要件を明確化した職能資格制度
② 各本部の職務で必要とされる知識・スキル・ノウハウ・経験を明示し、職務能力の増強に活用

2. 評価制度の見直し

① 業績と職務能力の向上は別々に評価し、短期の業績は賞与に、職務能力は昇給・昇格に反映
② 能力評価の項目を明示し、上司と部下の相互コミュニケーションを通じて職務能力改善に取り組む

3. 60歳以降の働き方の見直し

① 60歳を過ぎても、気力・体力・環境に問題がなければ、60歳時点の業務と給与を維持
② 全社レベルの人財マッチングと再教育による個の職務能力に最適な配置を実現し、
60歳以上の方々が活き活きと働くことができる会社を目指す

4. 給与・手当・初任給の見直し

① 職務と職能に基づく給与体系を導入
② 子育て支援、通勤、国内出向などの各種手当を見直し
③ 初任給を大幅に引き上げ、若年層からの賃金カーブの立ち上がりを改善

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

ESG｜人への投資（人財育成）

スズキが持続的に成長していくため、「個の成長」と「個の稼ぐ力」の強化を目的に人財育成に取り組んでいる

8 働きがいも 経済成長も

●研修

- 上司と部下が一体となり、個人のキャリアパスに沿って社員一人ひとりが主体的に必要なスキルを必要な時に学べる研修環境を整備
- 必要なスキル・知識・経験・ノウハウを明確にし、個の職務能力を向上させるための人財育成計画を各部門が立案、それに沿った研修を企画・実施していく

●役職者の育成

- 役職就任前に役割に求められるスキルを習得するための研修を実施していく
- 2022年度より、管理職マネジメント研修を開始、2024年度から役員に向けても求められるスキルを明確にし、体系立てた研修を実施している

●スタートアップ企業等への派遣

- 「困難に立ち向かい自ら切り開く起業家精神」に立ち返り視野・知見を拡げ、社外へのアンテナを高めることを目的に、若手人財をスタートアップ企業等へ派遣

●シリコンバレー研修

- 失敗を恐れず挑戦する「ベンチャー精神」に触れ、問題解決手法「デザイン思考」を学ぶことを目的にシリコンバレーへ人財を派遣
- 2017年より17回、延べ171名派遣、コロナ禍はオンラインや国内派遣にて9回、延べ123名に研修を実施

●デジタル教育

- 全社員、DX推進人財、経営層及び管理職の3層に分けて、それぞれの階層に合ったデジタル教育を実施
- 主な教育内容は、DXマネジメント研修、業務デジタル化ツール推進教育、データ分析・活用教育、生成AIの活用基盤の構築・活用など

●キャリアアップのための取り組み

- 自己申告制度…年1回、自らの仕事と能力を振り返りつつ、将来チャレンジしたい仕事や部門をキャリアプランとして描き、その内容を上司と人事に申告する
- ローテーション制度…知識・技術力向上と組織の活性化を目的に、事務職、技術職、営業職の若手社員は、入社10年間で全員他部門への異動を経験

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

ESG｜人への投資（職場環境整備・制度見直し）

従業員持株会制度を見直し

- 奨励金付与率…従来5.6%
  →2023年4月から100%（上限１万円/月）
- 福利厚生拡充とともに、株保有による経営参画意識の醸成、従業員のモチベーションアップ、ひいては会社の成長を促す効果に期待

選択型福利厚生制度導入

- 2023年10月よりカフェテリアプラン導入
- 公平性・多様性のある福利厚生を実現

外国人従業員への取り組み

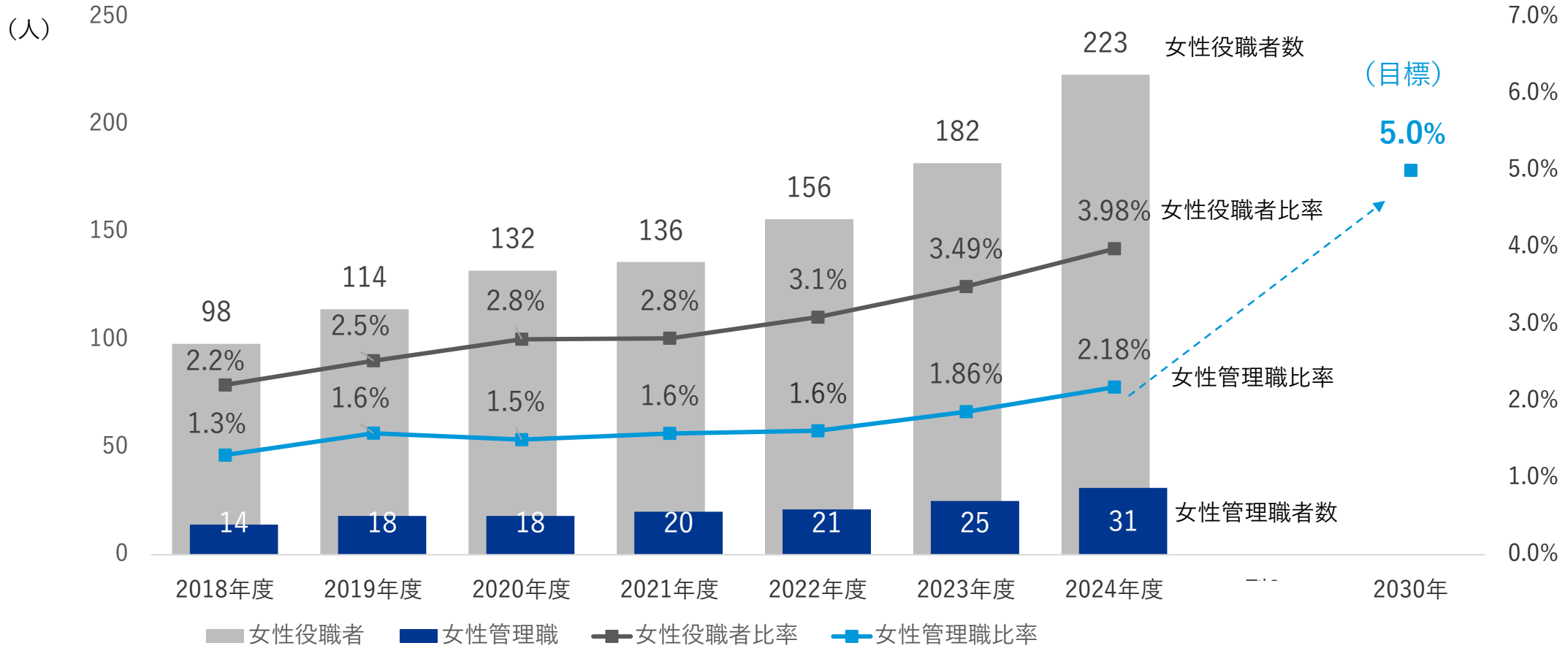
- KUROFUNE株式会社が展開する在日外国人向けの生活支援アプリ「KUROFUNE LIFE SUPPORT」を活用 リリース
- 多様な人財が能力を活かして活躍できる環境整備を促進

- 株式会社鳥善と協業を開始し、本格的なインドベジタリアン料理をスズキ社員食堂に提供 リリース
- 外国人従業員が心身ともに充実した状態で意欲と能力を発揮し、活き活きと働けるような環境づくりをするため

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

女性役職者・管理職者数と比率

- 女性管理職比率は2024年度で2.18%
  2030年までの目標を5.0%とし、両立支援やキャリア形成支援に取り組む



© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

ESG｜女性社員向けパネルディスカッション

2024年7月　**スズキの女性社員を対象にキャリア形成をテーマとした座談会を開催**

- 事前に実施した「両立支援・女性活躍（キャリア形成支援）のアンケート」で、”管理職へのキャリアアップに興味がある”と回答した社員が参加
- 女性管理職によるパネルディスカッション形式で行い、ゲストとして高橋尚子取締役も参加

ディスカッション内容

1	管理職になったきっかけや理由は？
2	家庭との両立における壁はあったか？
3	管理職としてのやりがいは？見える景色に変化は？
4	課長となり大変な状況をどのように打開した？
5	プレイヤー業務にやりがいを感じ、管理職になることを躊躇する方へは？
6	男性と同じように働いているか、女性ならではの働き方をしているか？

詳細は統合報告書またはサステナビリティデータブックよりご確認いただけます

統合報告書2024
（P11~）

サステナビリティデータブック2024
（P134~）

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

ESG｜多様な働き方への対応

●労働時間短縮の取組み

- 総労働時間をベースとした残業時間管理の厳格化
- 深夜帯の勤務を抑制するフレキシブルタイム制の導入
- 継続した休息時間を確保する勤務間インターバル制の導入
- ワークライフバランスを目的とした定時退社日の設定

●両立支援制度

- 子供の養育または家族の介護を必要とする従業員に対する短時間勤務制度の導入
- 育児休職・介護休職制度
  2024年度の男性育児休職利用率：65.7%　（出生時育児休暇と合わせた取得率(重複除く)：91.6%）
- 従来の「配偶者出産休暇」に加え、子の出生時に取得できる「出生時育児休暇」を新設
- 育児休職者復帰支援セミナー「復職に向けてのパパママ情報交換会」を定期的に開催
  - 2024年度の育児休職復職率：99.5%（男性100%、女性97.9%）
  - 2024年「子育てサポート企業」として厚生労働大臣のプラチナくるみん認定取得

●「健康経営優良法人2025（ホワイト500）」に初認定

- 優良な健康経営®を実施している法人が認定される「健康経営優良法人」の中でも上位500法人に冠される「ホワイト500」に認定

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

ESG｜人権の尊重　1/2

●スズキグループの人権方針

- 2022年12月、外部専門家からのアドバイスも得ながら、取締役会での決議を経て「スズキグループの人権尊重についての基本方針」を制定　資料

●お取引先様との人権尊重に関する合意形成

- 人権尊重について記載したCSRガイドラインをお取引先様に示す形態に加え、スズキグループ各社（海外子会社を含む）がお取引先様と締結している購買基本契約に人権尊重に関する合意事項を追加するため、お取引先様との契約締結手続きを進めている

●人権尊重における現状把握と優先課題の特定

- 人権に関する優先課題
  1. 差別・ハラスメントの禁止
  2. 強制労働の禁止
  3. 児童労働の禁止
  4. 従業員との対話・協議

これらの優先課題を以下の調査やエンゲージメント等を通じて特定

- 内部通報制度で受け付けた情報
- お取引先様へのアンケート調査
- 投資家とのエンゲージメント

- 人権リスクの特定については、自社従業員のみならず、グループ会社、お取引先様、お客様により近い販売会社に至る、バリューチェーンにおける全ての人に対して、国内・海外を問わず、グローバル視点で実施する必要がある
- その中で、特に**「お取引先様」「自社従業員」「お客様」**についての取り組みを進めている

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

ESG｜人権の尊重　2/2

お取引先様との取り組み

国内お取引先様への訪問調査

●潜在的リスクの特定

- 日本での外国人技能実習生の受け入れに際して、また受け入れ後の労働環境及び生活環境面にて人権侵害のリスクがあることを認識
- 2022年に人権NGOの支援を受けながら、国内のお取引先様に対して外国人労働者問題をテーマとしたセミナーを開催。また、外国人労働者の採用状況等についてのアンケート調査を実施した結果、全体の約３分の１のお取引先様で外国人技能実習生を受け入れていることがわかり、詳細な状況を確認するため、同NGOと合同で訪問調査を実施

●リスク回避のアクション

- ①技能実習生の在籍数が多いお取引先様、②当社との取引比率が高くスズキとしての責任が求められるお取引先様、という2つの基準を組み合わせて16社を選定し、2022年12月から2024年3月にかけて訪問調査を実施
- 受け入れ個社で実施できる改善内容はその場で指摘し、現地送り出し機関に係る課題や要改善点については、監理団体に改善を依頼
- 他の取引先への横展開として、1次取引先84社を対象とした報告会を2024年6月に実施

責任ある鉱物調達の取り組み

- スズキの製品に使用されている特定の鉱物（スズ、タンタル、タングステン、金、コバルト、マイカ）が紛争地域等において武装勢力の資金源になっていないかを確認するため、国際的な枠組みであるRMIのフォーマットを用いて、サプライチェーンを遡り製錬所を特定する調査を、二輪車、四輪車及び船外機の全製品について実施
- 児童労働等の人権侵害が疑われる鉱物の使用回避を目指す

自社従業員における取り組み

- 職場内での人事上の問題や安全衛生・メンタルヘルスに関する相談窓口として「人事・総務 相談窓口」を設置
- 精神科医・臨床心理士による『心の相談室』や、外部カウンセリングサービス（EAP）も導入

お客様への取り組み

- 国内で販売している全ての乗用車の純正アクセサリーとして、安全性の高い新基準UN-R129に適合した「i-Size チャイルドシート」を設定
- 「子どもの権利とビジネス原則」に賛同し、提供する製品・サービスの安全性の確保を通じて、子供が安全に移動する権利を守ることに努めている

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

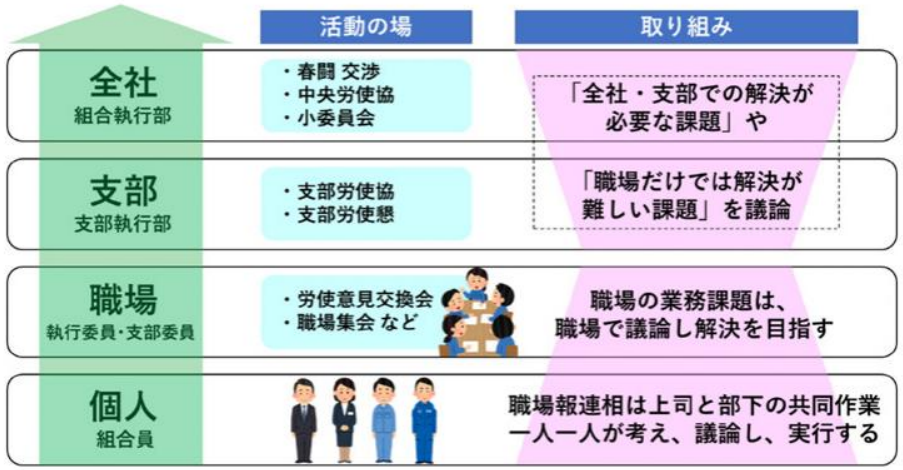
ESG｜労使関係

●従業員とのコミュニケーション

- 労働組合との相互信頼に基づく良好な労使関係を構築
- 2022年以降の春闘は、会社側から将来に向けての取り組みを伝え、組合とはその施策に対して取り組むべき課題を共有し、ベクトルを合わせながら解決に向けて話しあう「対話の場」となっている
- 2021年より、社長自らが社内全職場（本部・工場・拠点）の現場へ足を運び社員と直接対話する意見交換会を実施。打ち明けられた困りごとへの対応状況は社内ホームページで公開

●マルチスズキの取組み

- 効果的なコミュニケーション、重要な意思決定への従業員の参加、および様々な福利厚生プログラムを通じて、安定した友好的な労使関係の確保に努めている
- 社長が主導し、様々な職位の従業員と定期的に双方向のコミュニケーションを行うことで、経営状態全体について常に情報を提供し、意見交換のための強力なプラットフォームを提供
- 従業員の子供のためのキャリアカウンセリング、ファミリーデー、家族のための工場見学などのイベント等も用意
- こうした取り組みにより良好な労使関係を維持、2012年の暴動問題発生以降、同様の問題は発生していない



マルチスズキにおける労働組合や現場従業員との対話機会

ミーティング	開催頻度
社長と労働組合代表者とのミーティング	月1回
生産・人事担当上級管理職と労働組合代表者とのミーティング	
生産・人事部門と労働組合代表者とのミーティング	
生産・人事部門と現場従業員とのミーティング	継続的に開催
専門ヘルプデスク「サマダン」による現場従業員からの苦情聞き取り	週1回

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

ESG｜災害時応援協定

スズキは、当社グループ販売会社と共同で自治体と災害時における車両貸与等に関する応援協定を締結

●災害時応援協定

- 台風、地震等の大規模災害等発生時または発生する恐れがある場合に自治体からの応援要請に基づき、スズキおよび当社グループ販売会社から四輪車を無償で貸与し、被災地で物資の運搬等にお使いいただく
- さらに、外部給電機能を備えた電気自動車についても、準備が整い次第、自治体からの応援要請に応じて無償貸与を行うことを応援内容に含めており、避難所等への電源供給にお使いいただく

締結年月	協定を締結した自治体	車両提供元
2024年12月	**静岡県浜松市**	株式会社スズキ自販浜松
	静岡県湖西市	株式会社スズキ自販浜松
2025年2月	**富山県朝日町**	株式会社スズキ自販富山
	静岡県磐田市	株式会社スズキ自販浜松
2025年3月	**愛知県豊橋市**	株式会社スズキ自販東海
2025年5月	**静岡県牧之原市**	株式会社スズキ自販浜松
2025年6月	**石川県能登町**	株式会社スズキ自販北陸

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

ESG｜コーポレートガバナンスの状況

	～15/3期	16/3期	17/3期	18/3期	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期	26/3期～
中期経営計画	中期経営目標（10/4～15/3）	中期経営計画 SUZUKI NEXT100（15/4～20/3）						中期経営計画～小・少・軽・短・美～（21/4～26/3）				中期経営計画 By Your Side（26/4~31/3）
成長戦略										2030年度に向けた成長戦略		
技術戦略											10年先を見据えた技術戦略	

取締役	任期	2002年以降 取締役任期1年		
	監督・執行	2006年 執行役員制度導入（取締役：29名→14名）		
	社外取締役	2012年以降 2名	3名	3名※

※第159回定時株主総会での承認を経て4名に増員予定

委員会等	・人事・報酬等委員会 ・コーポレートガバナンス委員会	・環境委員会 ・カーボンニュートラル推進会議

理念・方針	・社是（2023年4月改定） ・行動理念 「小・少・軽・短・美」、「中小企業型経営」、「現場・現物・現実」 ・スズキグループ行動指針 ・スズキグループ人権尊重についての基本方針	・スズキグループ税務方針

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

ESG｜取締役・監査役

取締役・監査役

2025/5/12現在

	現在の体制		第159回定時株主総会後の体制		委嘱　（社外取締役・社外監査役：現職）
	氏　名	役職	氏　名	役職	
取締役	鈴木 俊宏	代表取締役社長	鈴木 俊宏	代表取締役社長	
	石井 直己	代表取締役副社長	石井 直己	代表取締役副社長	社長補佐 経営企画本部、人財開発本部、法務・知財本部、財務本部、IT本部、 インド・コーポレート領域 管掌
	加藤 勝弘	取締役副社長	加藤 勝弘	取締役副社長	技術統括 技術戦略本部、四輪電動車技術本部、四輪電気電子技術本部、四輪車両技術本部、 四輪パワートレイン技術本部、法規・認証本部、横浜研究所、インド技術 管掌
	鳥居 重利	取締役専務役員			エグゼクティブフェロー（生産全般）
	岡島 有孝	取締役専務役員	岡島 有孝	取締役専務役員	東京支店長 渉外・広報・IR/SR、インド渉外・広報 管掌
			村松 鋭一	取締役専務役員	グローバル営業統括 日本営業本部、インド事業本部、四輪欧州・中東アフリカ本部、 四輪アジア・中南米・大洋州本部、サービス本部、マリン事業本部、二輪事業本部、 部品用品本部 管掌
	堂道 秀明	取締役　※1	堂道 秀明	取締役　※1	
	江草　俊	取締役　※1	江草　俊	取締役　※1	早稲田大学 ナノ・ライフ創新研究機構 未来イノベーション研究所 客員上級研究員/研究院客員教授
	高橋 尚子	取締役　※1	高橋 尚子	取締役　※1	一般社団法人パラスポーツ推進ネットワーク 理事長、 スターツコーポレーション株式会社 社外取締役
			青山 朝子	取締役　※1	日本電気株式会社 Corporate SVP FP&A部門長 兼 グローバルファイナンス長
監査役	豊田 泰輔	常勤監査役	豊田 泰輔	常勤監査役	
	山岸 重雄	常勤監査役	山岸 重雄	常勤監査役	
	長野 哲久	監査役　※2	長野 哲久	監査役　※2	弁護士
	福田 充宏	監査役　※2	福田 充宏	監査役　※2	国立大学法人静岡大学工学部長
	鬼頭 潤子	監査役　※2	鬼頭 潤子	監査役　※2	公認会計士 株式会社アルペン 社外取締役（監査等委員）、 クロスプラス株式会社 社外取締役（監査等委員）

※1 社外取締役　※2 社外監査役

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

ESG｜役員報酬

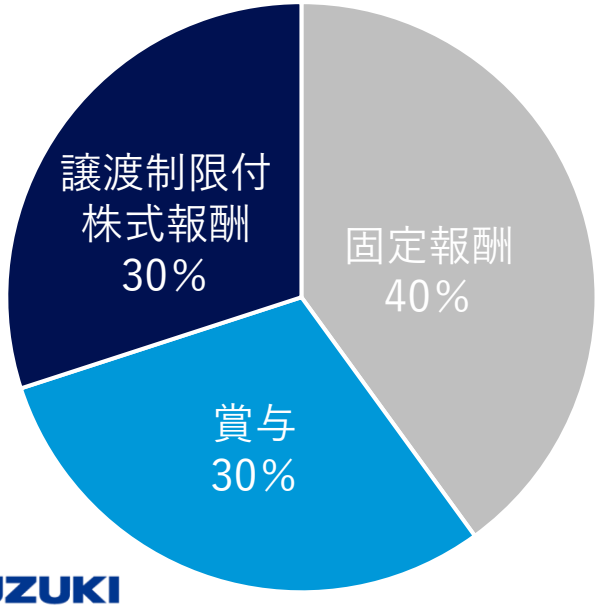
●取締役の報酬

- 個人別の報酬の決定方針は、委員の過半数を社外取締役とする人事・報酬等委員会に決定方針案の妥当性を諮問し、その答申を踏まえて取締役会で決議
- 個人別の固定報酬の具体的な内容は、取締役会から人事・報酬等委員会へ決定を委任
  なお、社外取締役の報酬は固定報酬のみ

●監査役の報酬

- 固定報酬のみ。個人別の具体的な内容は、監査役の協議により決定

社外取締役を除く取締役の
報酬割合の目安



賞与（業績連動報酬）

- 業績指標は会社の収益性の観点から連結営業利益
- 個人別の支給額は、取締役会であらかじめ定める業績指標に、取締役会であらかじめ定める一定割合及び職位別乗率を乗じて算定し、社外取締役を除く取締役に交付

譲渡制限付株式報酬

- 企業価値の持続的な向上に対するインセンティブとして機能すること、また、株主の皆様とさらなる価値共有を進めることを目的として、社外取締役を除く取締役に交付

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

ESG｜政策保有株式

株式保有方針

- 目的　…　持続的な成長と中長期的な企業価値の向上
- 基準　…　以下に資する場合、取引先等の株式を保有

事業機会の創出　**業務提携**　**安定的な取引・協力関係の構築、維持、強化等**

- 保有　…　・毎年、取締役会で保有の適否を検証（企業価値向上・資本コスト等）
  ・売却対象とした株式の縮減

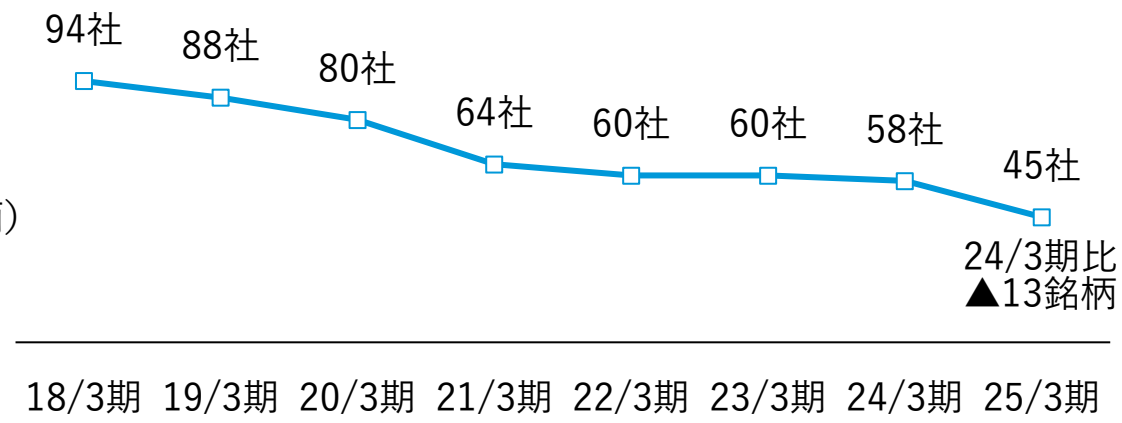
政策保有株式に係る議決権行使

- 投資先企業の経営方針を尊重した上で、中長期的な企業価値の向上の観点から判断し行使

政策保有株式の売却状況

- 24/3期に3銘柄を売却
  （非上場1社の新規上場により、保有する上場銘柄数の減少は2銘柄）
- 25/3期に14銘柄を売却
  （非上場1社の新規上場により、保有する上場銘柄数の減少は13銘柄）

上場株式の期末保有銘柄数



トピックス　リリース1　リリース2

2025年4月に東京海上日動火災保険株式会社、損害保険ジャパン株式会社による当社普通株式の売出しを実施

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

ESG｜完成検査の不適切事案に関する再発防止策の実施状況

法令遵守を徹底するため、全社的意識改革及び組織風土の改善に経営陣を中心に全社一丸で取り組んでいます。今後も引き続き、さらなる改善に向けた取り組みを継続してまいります。

2023年4月、これまでの取組みや国交省への報告書等のプレスリリースをまとめたHPを公開→ 「品質」への決意

●経営陣の決意と行動

- 社長が法令遵守について全従業員向けにメッセージ発信
- 組織改革（検査本部及び検査改革委員会の設置、三層監査体制の構築）の実施
- リメンバー5.18活動※として社長による車座対話を全本部実施　※過去の不正事案を風化させない為に取り組んでいる活動

●全社的意識改革及び組織風土の改善

- 不正問題を学習する常設展示エリアの設置
- コンプライアンスハンドブックの配布（右）
- 「報連相」等の意識改革を目的とした研修
- 「仕事の進め方の心得」を社長から全社に周知
- 毎日、業務開始時にコンプライアンスクイズを実施

Everyday Compliance Quiz
毎コンクイズ

●より確実に正しい検査を行うために

- 困り事などを検査員から吸い上げ、現場改善につなげる取組み
  （相談員配置、気掛りメモ、組長班長の意見集約、個別面談、グループミーティング等）
- 検査員増員
- 教育等を行う専用ラインの整備（写真①）
- 検査設備の改善（写真②）
- 検査ライン改善（写真③④）、新完成検査棟稼働開始（写真⑤～⑦）

①教育用の専用ライン

②サイドスリップ検査

③自動ゲートによる入退出管理

④生体認証による検査記録

⑤湖西第一東 新完成検査棟

⑥同 完成検査ライン

⑦同 完成検査休憩所兼学習室

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

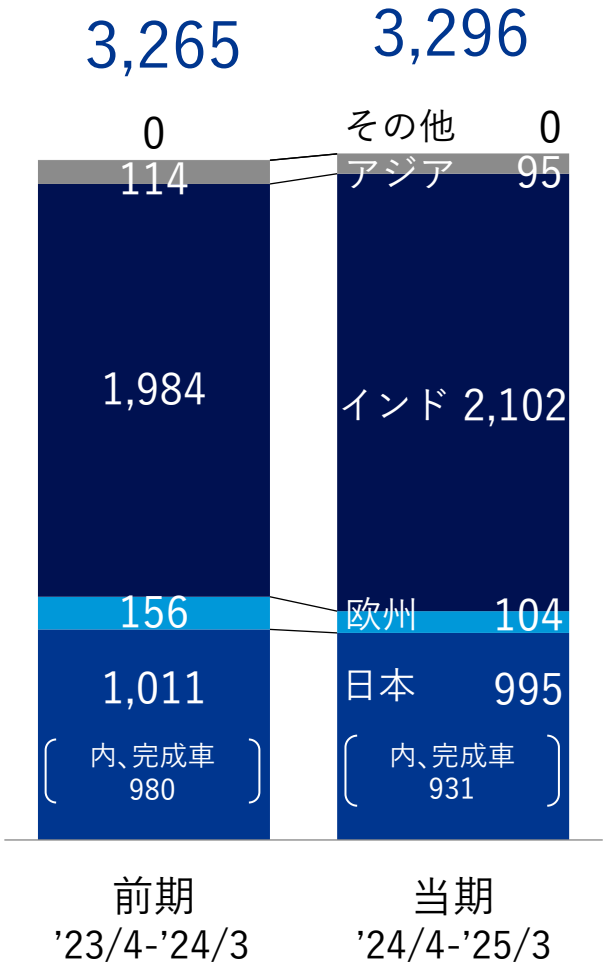
3. 足元の業績

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

四輪台数実績｜グローバル

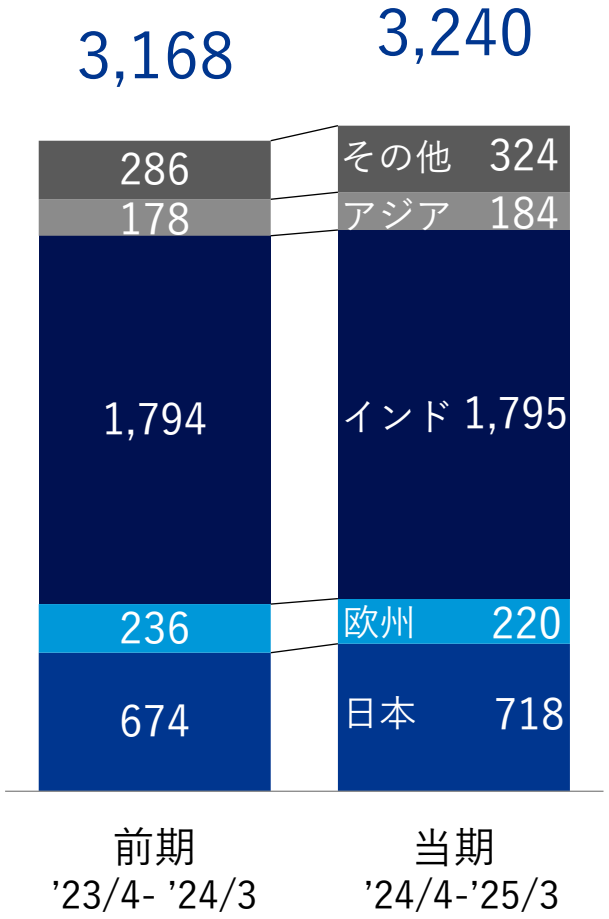
生産実績

+31（+0.9%）（千台）



販売実績

+72（+2.3%）（千台）



● 当期の世界販売

（千台）

	台数	前期比	
世界販売	3,240	+72	+2.3%
日本	718	+43	+6.4%
欧州	220	▲16	▲6.9%
インド	1,795	+2	+0.1%
アジア（除インド）	184	+6	+3.6%
パキスタン	69	+26	+60.1%
インドネシア	65	▲13	▲16.9%
フィリピン	21	+3	+16.6%
その他	324	+37	+13.1%
中南米	122	+12	+11.0%
アフリカ	109	+12	+12.0%
中近東	64	+12	+23.2%
大洋州	28	+2	+6.1%

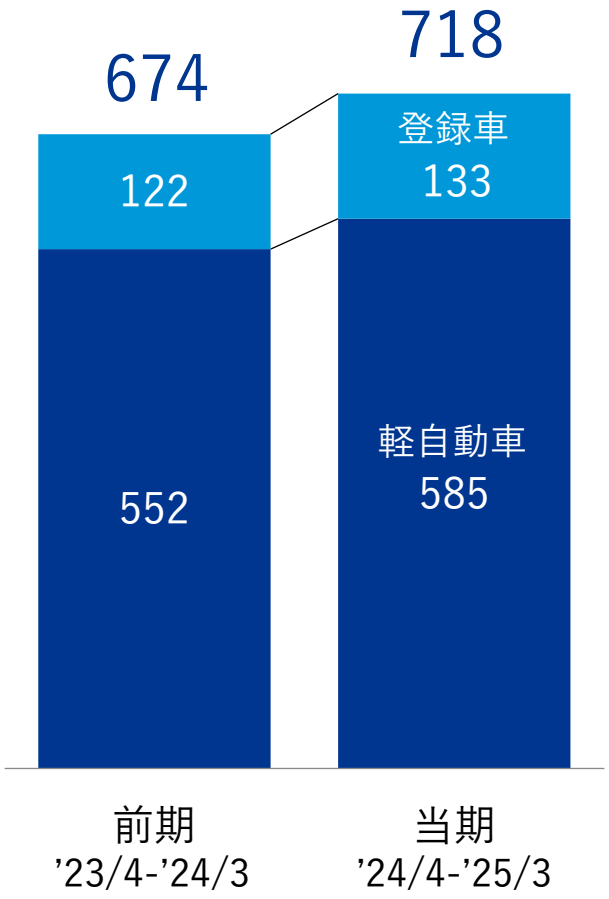
SUZUKI

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

四輪販売台数｜日本

販売実績

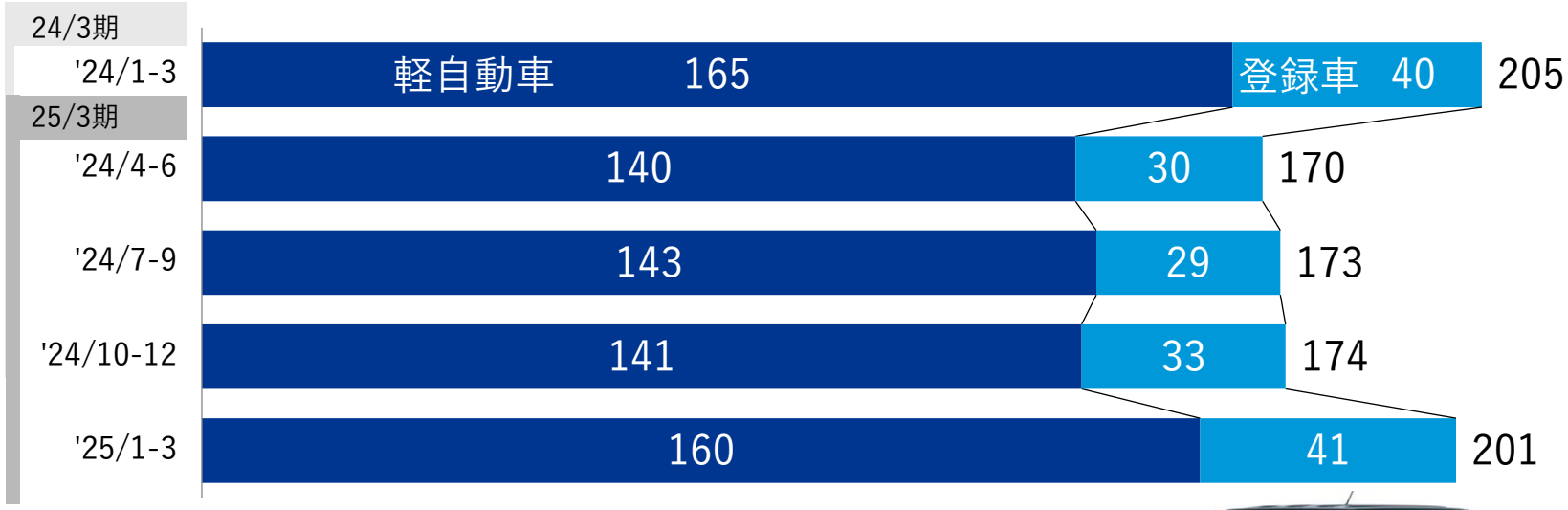
+43（+6.4%）（千台）



● 国内販売の状況

・2024年度の軽自動車販売台数１位(シェア35.9%)
・2024年度の登録車販売台数は133千台(過去最高)
・軽自動車と登録車の合計販売台数はシェア2位

国内販売台数推移（千台）



● 新型「ジムニー ノマド」 発売

・4月3日より発売
・受注再開に向けて準備中

SUZUKI

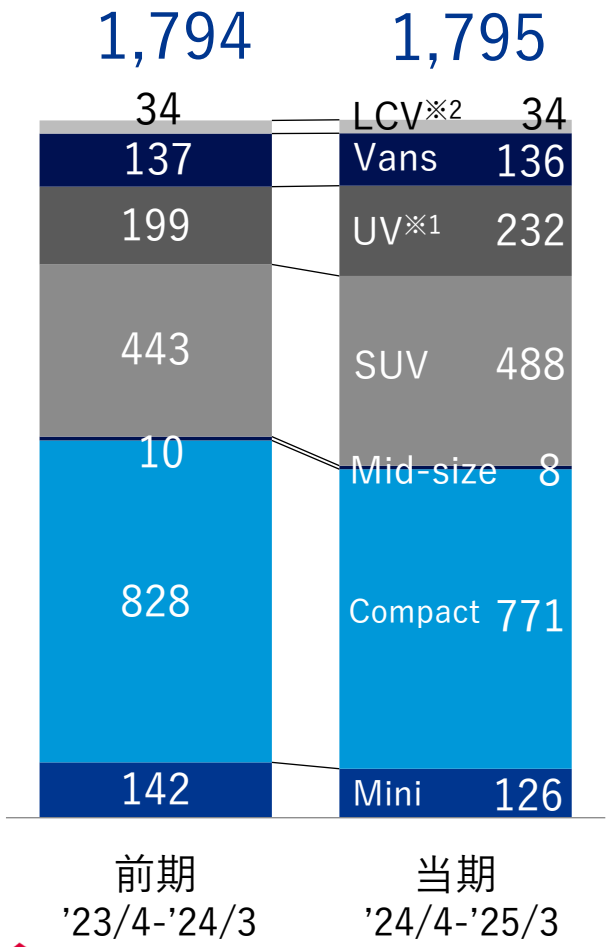
© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

四輪販売台数｜インド

販売実績

+2（+0.1%）

（千台）



● 当期の販売実績

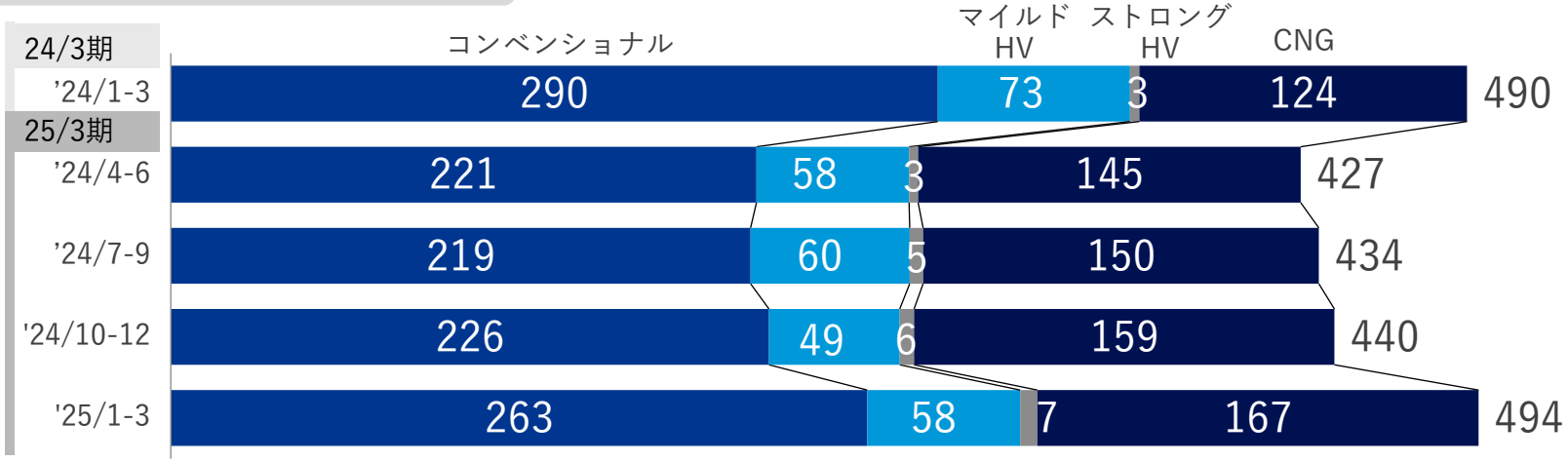
- 2024年度の卸販売台数は1,795千台(前期比+0.1%)
- 末端販売台数は前期比+3.7%。健全な在庫水準を維持。
- 輸出台数は初の30万台超えとなり過去最高

2025年2月25日より生産開始したカルコダ工場

● 次期の販売見通し

- 次期の卸販売見通しは、新型SUV 2 モデルの投入等により、市場成長率（当期比+1～2%：弊社予想）を上回る見通し
- 輸出台数は当期からさらに拡大（同+約20%）する見通し
- カルコダ工場が稼働開始、人気SUVモデル「ブレッツァ」を生産

パワートレイン別卸販売台数　（千台）

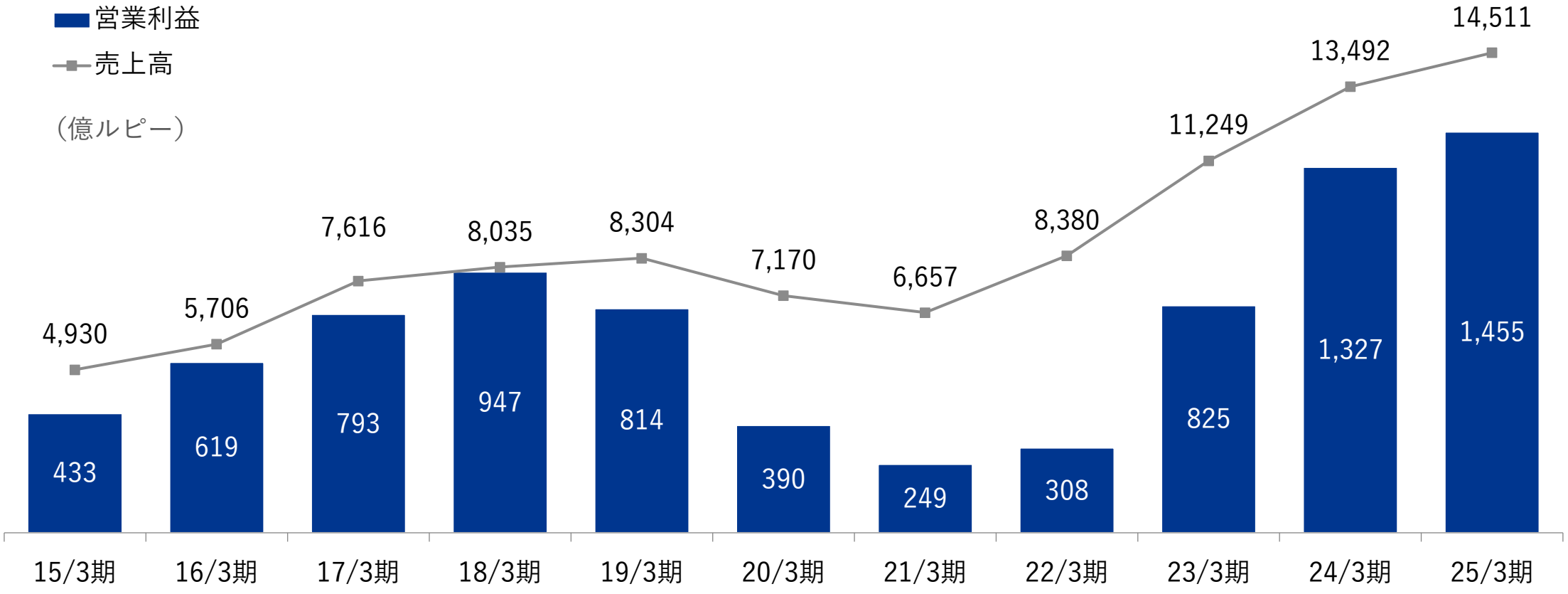


注．商用車(LCV)を含む卸販売実績、OEMは除く
※1 UV=Utility Vehicles（Ertiga等）※2 LCV=Light Commercial Vehicles

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

インド｜マルチスズキの業績推移

マルチスズキ　業績推移

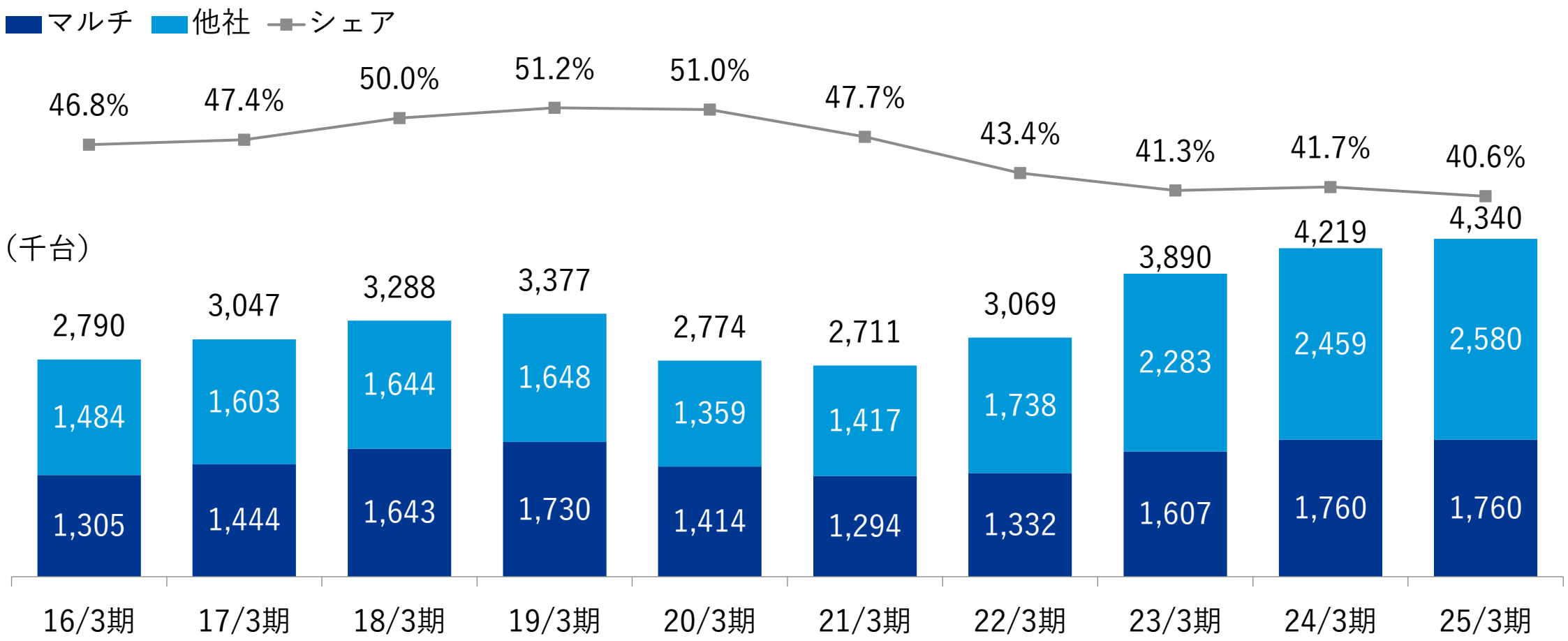


注．連結決算数値、 2016年3月期以降はIndAS（インド版IFRS）
営業利益は営業利益は次式により算出　Sales of product + Other operating revenues - Total Expenses + Finance costs
前年同期の業績値は、当期との比較のため、前期期初よりSMGを連結した前提で再計算した数値

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

インド｜販売台数推移

全体市場とマルチスズキの販売台数推移



※商用車除く卸販売ベース。OEM除く。

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

インド｜マルチスズキ　ラインナップ　1/2

SUV

BREZZA HEV CNG
（1500cc）

NEXA

GRAND VITARA HEV CNG
（1500cc）

NEXA

Jimny 5-Door
（1500cc）

NEXA

FRONX HEV CNG
（1000cc, 1200cc）

MUV

NEXA

XL6 HEV CNG
（1500cc）

ERTIGA HEV CNG
（1500cc）

NEXA

INVICTO HEV
（2000cc）

Mid-Size

NEXA

CIAZ HEV
（1500cc）

VAN

EECO CNG
（1200cc）

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

インド｜マルチスズキ　ラインナップ　2/2

Mini

S-PRESSO CNG
（1000cc）

ALTO K10 CNG
（1000cc）

Commercial

Super Carry CNG
（1200cc）

Compact

CELERIO CNG
（1000cc）

CNG
WAGON R
（1000cc, 1200cc）

NEXA
IGNIS
（1200cc）

SWIFT CNG
（1200cc）

NEXA
CNG
BALENO
（1200cc）

DZIRE CNG
（1200cc）

SUZUKI

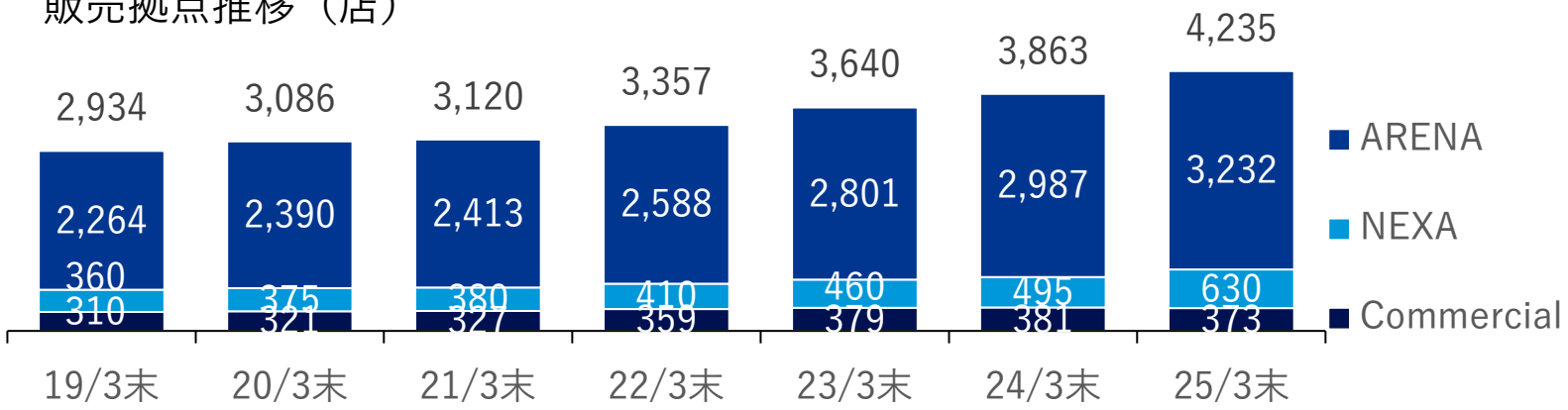
© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

インド｜販売・サービス体制の強化

販売店網の拡充… 4つの販売チャネル

- ARENA
  - ・都市部（大規模店等）
  - ・地方部（中規模店、小規模店、巡回サービス等）
- NEXA
  - ・プレミアム車販売網
- Commercial
  - ・商用車販売網

販売拠点推移（店）



- True Value
  - ・中古車販売網　577店舗（24/3末）

NEXA

ARENA - MAIN OUTLET

移動式ワークショップ

ARENA - E OUTLET

ARENA - R OUTLET

TRUE VALUE

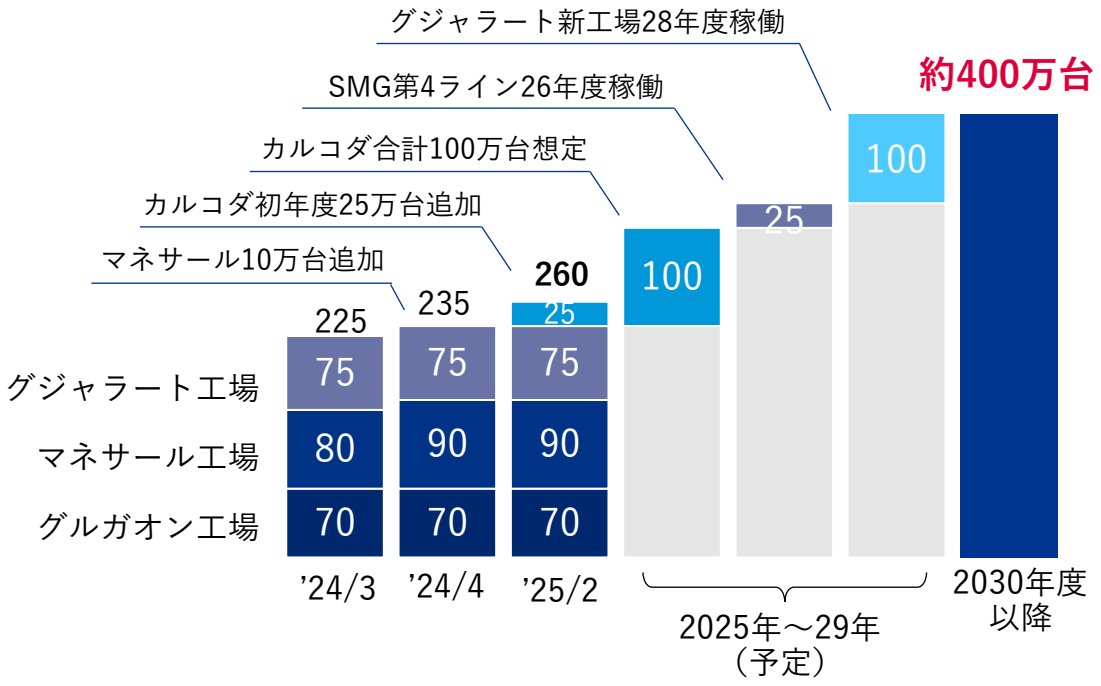
© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

インド｜生産体制の強化

- インドの需要を賄うため、また輸出拠点として拡大するために、年400万台の生産体制を目指す
- 市場状況を見ながら適切なタイミングで年400万台体制へ

インド四輪生産能力

（2勤定時、万台）



グルガオン工場

マネサール工場

グジャラート工場

カルコダ工場　※2025年2月 稼働開始

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

生産体制再編｜SMG譲渡の考え方 リリース1 リリース2 リリース3 リリース4

- スズキ100%出資の子会社であるSMG（Suzuki Motor Gujarat）が、マルチスズキとの生産委託契約を終了
- **マルチスズキがSMG株式を全て取得し子会社化**
- マルチスズキへのSMG譲渡スキームは**第三者割当増資による株式交換**
- 2023年11月に譲渡完了

SMGを別会社とした背景

設立当初の目的
- 短期間で生産能力を引き上げ
- 既存工場と競わせ品質と効率を向上

成果
- ６年弱で75万台の生産能力到達
- 2022年8月にSMG累計生産200万台達成※
- 品質も安定し一定の役割を果たした

株式交換で行うメリット

マルチスズキ
- 資金を量産拡大投資に活用

スズキ
- 出資比率上昇(56.48%→58.19%)による連結利益および配当収入増加

今後の役割分担

生産業務統括

効率化
競争力アップ

収益性向上

マルチスズキ 400万台に向けた**量産拡大投資**

スズキ 電動化･CN等に向けた**先行技術開発投資**

2024年10月 リリース
マルチスズキはSMGを吸収合併することを決議

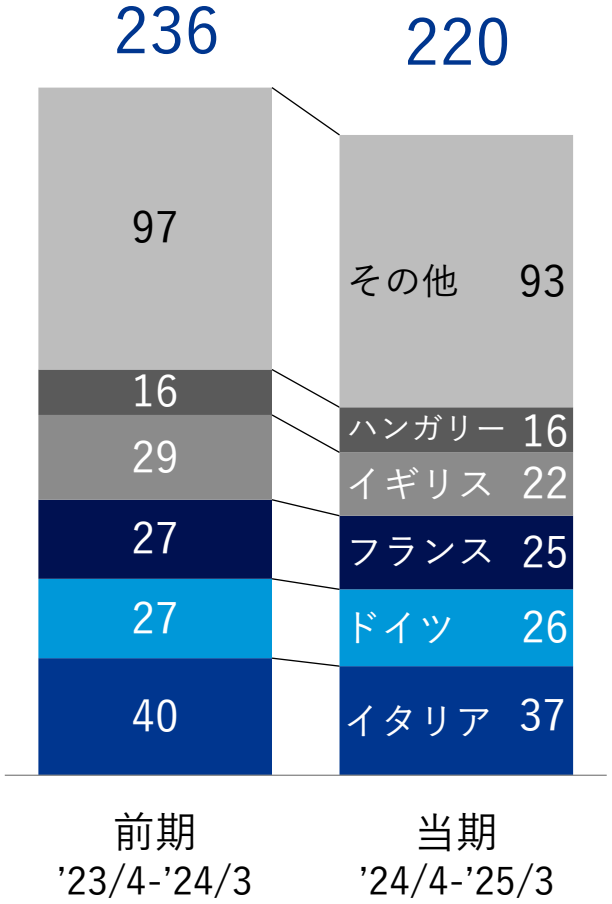
※2023年12月にはSMG累計生産300万台達成

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

四輪販売台数｜欧州 / アジア（インド除く）

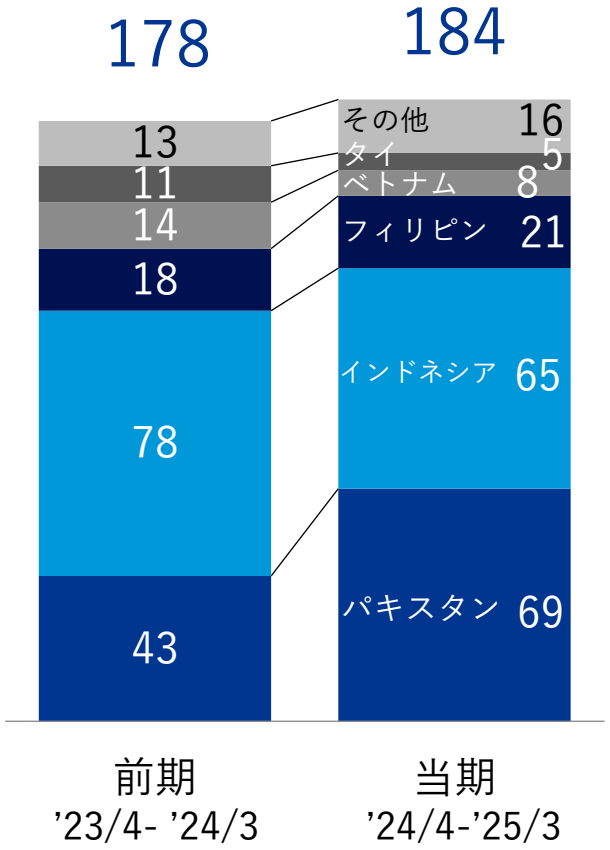
欧州

▲16（▲6.9%）（千台）



アジア（インド除く）

+6（+3.6%）（千台）



● 当期の販売状況

◆ 欧州

・スイフトの販売が堅調に推移

・イグニス、ジムニーの販売終了により、全体の販売台数は減少

◆ パキスタン

・豊作や金利低下により、アルト、スイフトを中心に個人需要が堅調

● トピックス：e VITARA 発売予定

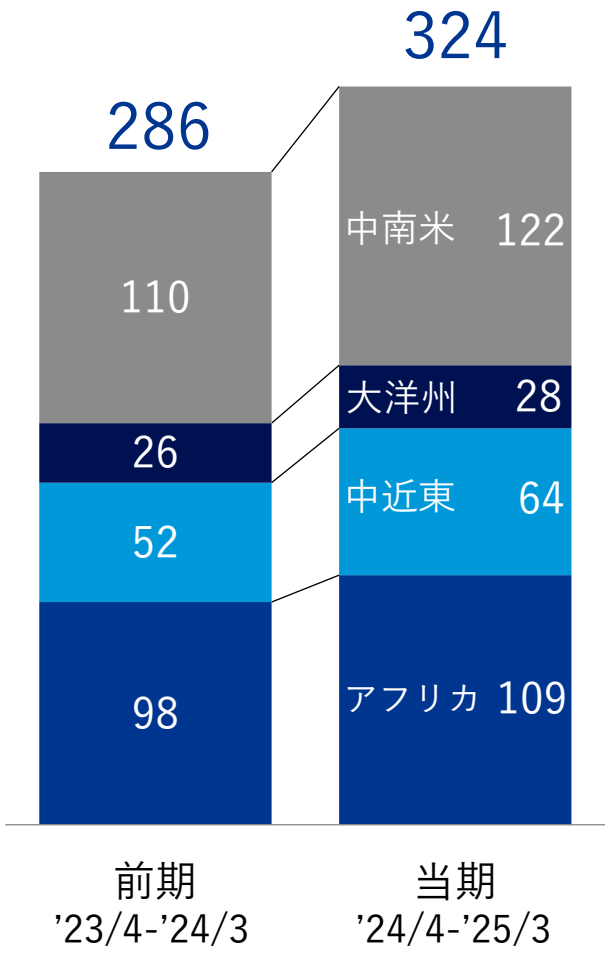
・グジャラート工場で生産し、2025年夏頃からインド、欧州、日本など世界各国で順次販売を開始

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

四輪販売台数｜その他地域

販売実績

+37（+13.1%）（千台）



● 当期の販売実績

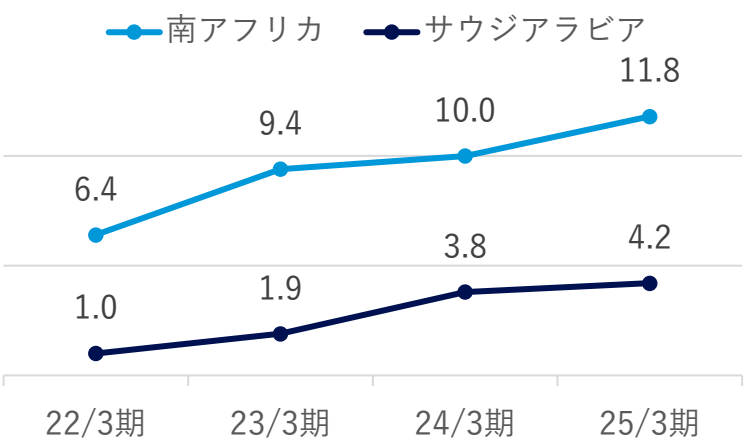
（千台）

	台数	前期比	
アフリカ	109	+12	+12.0%
南アフリカ	63	+11	+20.7%
中近東	64	+12	+23.2%
サウジアラビア	36	+6	+19.4%
大洋州	28	+2	+6.1%
中南米	122	+12	+11.0%
メキシコ	44	+5	+13.2%
チリ	21	+3	+18.9%

・中近東、アフリカ、中南米ともに好調を維持
・南アフリカはシェア11.8%
スイフト、フロンクス、エルティガ等のインド製モデルを中心に販売を牽引

● トピックス：シェア推移

（%）



● トピックス：南アフリカ

・Cars.co.za Awardsにて
スイフトが小型車部門大賞を受賞

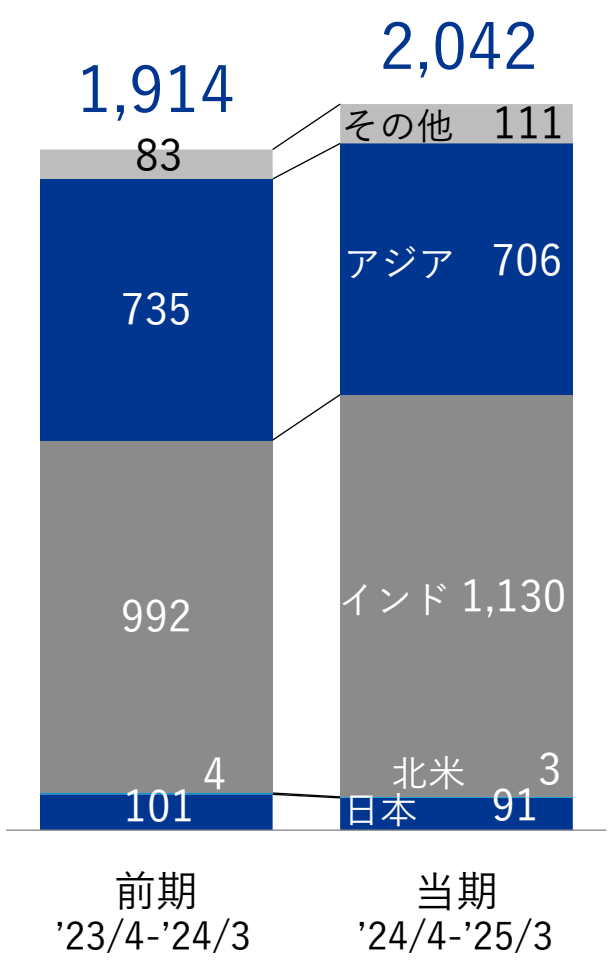
SUZUKI

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

二輪台数実績｜グローバル

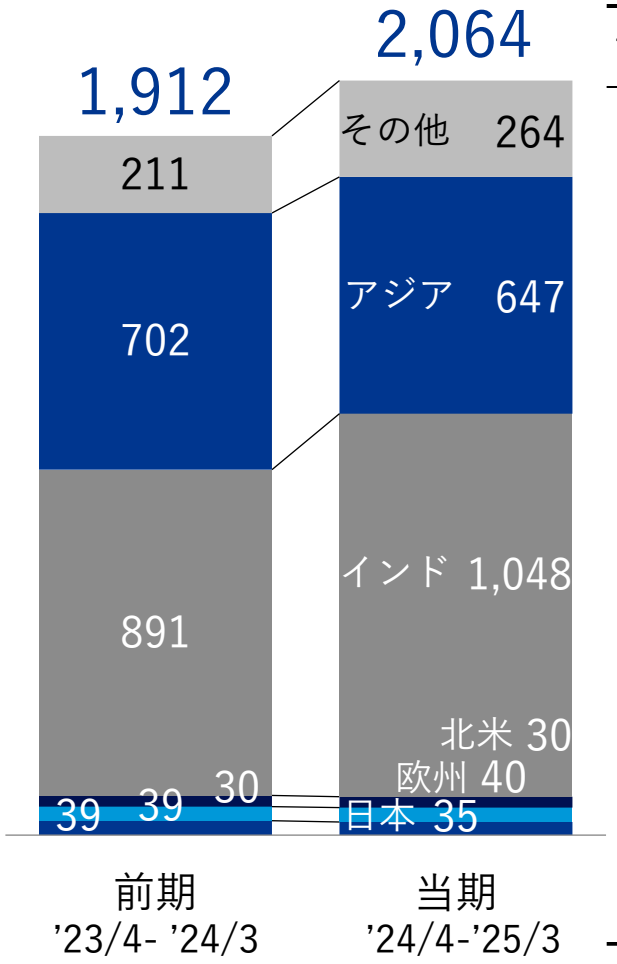
生産実績

+128（+6.7%）（千台）



販売実績

+152（+7.9%）（千台）



● 当期の世界販売

（千台）	台数	前年同期比	
世界販売	2,064	+152	+7.9%
日本	35	▲3	▲8.5%
欧州	40	+0	+1.2%
北米	30	▲0	▲1.4%
インド	1,048	+157	+17.6%
アジア（除インド）	647	▲54	▲7.7%
中国	331	▲64	▲16.1%
フィリピン	150	▲14	▲8.6%
その他	167	+23	+16.2%
その他	264	+53	+25.1%
中南米	242	+51	+26.8%
その他	22	+2	+8.8%

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

二輪｜新型車ラインナップ

GSX-8S
2023年3月発売

V-STROM 800
2023年10月発売

GSX-S1000GX
2023年12月発売

GSX-8R
2024年1月発売

ACCESS
2025年1月発売

BEV
e-ACCESS
2025年4月発売予定※

NEW
DR-Z4S
2025年4月発売

NEW
DR-Z4SM
2025年5月発売

年月は世界初投入時期

※2025年1月発表時点

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

2025年3月期決算｜総括

（億円）		当期 ('24/4-'25/3)	前期 ('23/4-'24/3)	増減	増減率	補足
連結業績	売上収益	58,252	53,575	＋4,676	＋8.7%	4期連続増収、過去最高
	営業利益 （利益率）	6,429 (11.0%)	4,938 (9.2%)	＋1,490	＋30.2%	3期連続増益、過去最高
	税引前利益 （利益率）	7,302 (12.5%)	5,917 (11.0%)	＋1,385	＋23.4%	5期連続増益、過去最高
	当期利益※ （利益率）	4,161 (7.1%)	3,170 (5.9%)	＋990	＋31.2%	5期連続増益、過去最高
世界販売	四輪車	3,240千台	3,168千台	＋72千台	＋2.3%	日本、パキスタン、中近東等で増加
	二輪車	2,064千台	1,912千台	＋152千台	＋7.9%	インド、中南米等で増加
配当	1株当たり年間配当金	41円	30.5円	＋10.5円	＋34.4%	5期連続増配※、過去最高 ※記念配当を含むと6期連続増配
ROE	ROE	14.6%	12.6%		＋2.0%	

※ 当期利益は親会社の所有者に帰属する当期利益

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

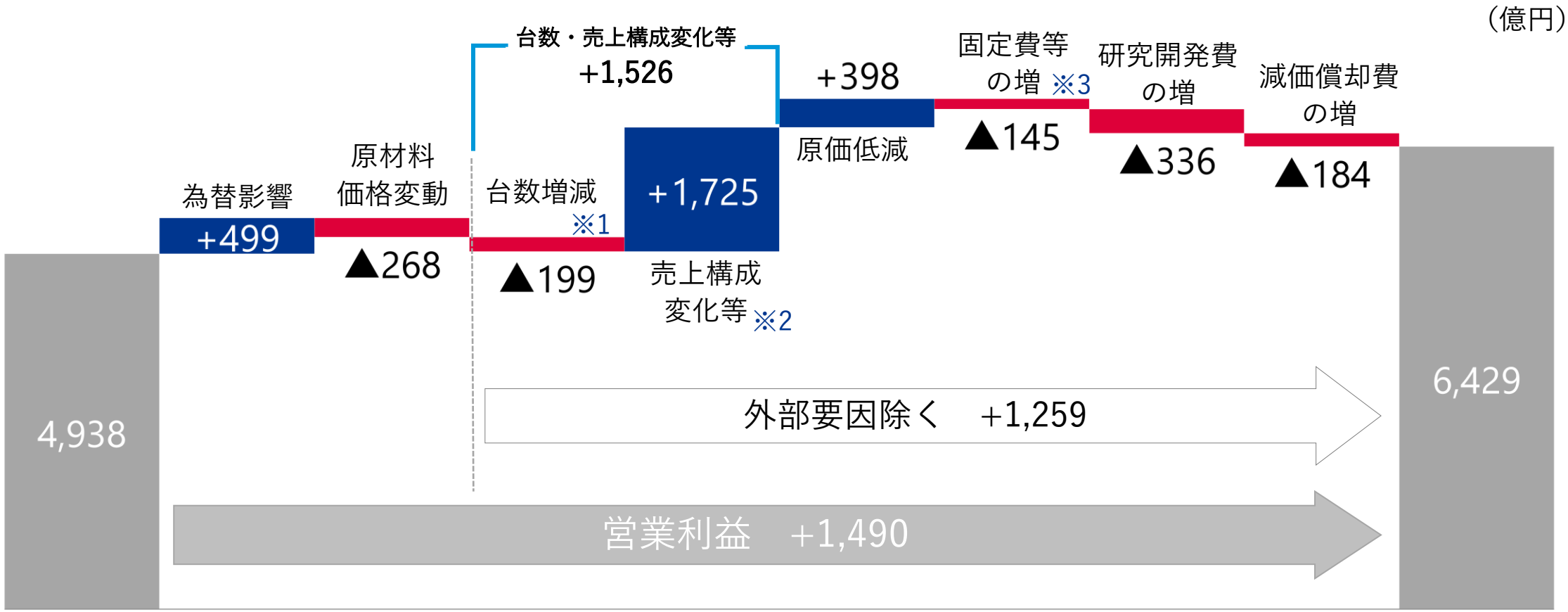
2025年3月期決算｜売上収益の状況

(億円)	四輪			二輪			マリン			その他			合　計			増減内訳	
	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	為替影響	台数増減
国内計	14,572	12,785	＋1,787	184	198	▲14	32	34	▲1	121	112	＋9	14,910	13,128	＋1,782		＋456
自　社	13,488	11,745	＋1,743	184	198	▲14	32	34	▲1	121	112	＋9	13,826	12,088	＋1,737		
ＯＥＭ	1,084	1,040	＋44										1,084	1,040	＋44		
海外計	38,480	35,911	＋2,569	3,797	3,453	＋345	1,064	1,083	▲19				43,342	40,447	＋2,895	＋1,490	＋324
欧　州	5,798	6,262	▲465	436	467	▲31	186	189	▲3				6,420	6,918	▲498	＋308	▲945
北　米	4	5	▲1	398	472	▲74	550	557	▲7				953	1,035	▲82	＋48	▲99
アジア	26,190	23,984	＋2,205	2,166	1,857	＋309	116	137	▲21				28,472	25,979	＋2,493	＋931	＋889
インド	23,015	21,130	＋1,885	1,448	1,213	＋235	12	9	＋3				24,476	22,352	＋2,124	＋801	＋764
〃以外	3,174	2,854	＋320	718	644	＋74	104	129	▲25				3,996	3,627	＋369	＋130	＋116
その他	6,488	5,659	＋829	797	656	＋140	212	200	＋12				7,497	6,515	＋982	＋203	＋479
総合計	53,052	48,696	＋4,356	3,981	3,650	＋331	1,097	1,117	▲20	121	112	＋9	58,252	53,575	＋4,676	＋1,490	＋780
内、為替換算影響			＋1,326			＋122			＋43						＋1,490		

注．当期…2024年4～2025年3月期、前期…2023年4～2024年3月期、北米…米国・カナダ、北米四輪車…部品用品等

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

2025年3月期決算｜営業利益増減要因（通期）



前期
’23/4-’24/3

当期
’24/4-’25/3

※1 台数増減影響 主な内訳
- 当社単独　▲370億円
- マルチスズキ　+214億円

※2 売上構成変化等 主な内訳
- 当社単独　+615億円
- マルチスズキ ▲175億円
- 未実現利益　＋1,015億円

※3 固定費等の増 主な内訳
- 労務費　▲ 272億円
- 営業政策費　▲75億円
- 品質関連費用　＋193億円

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

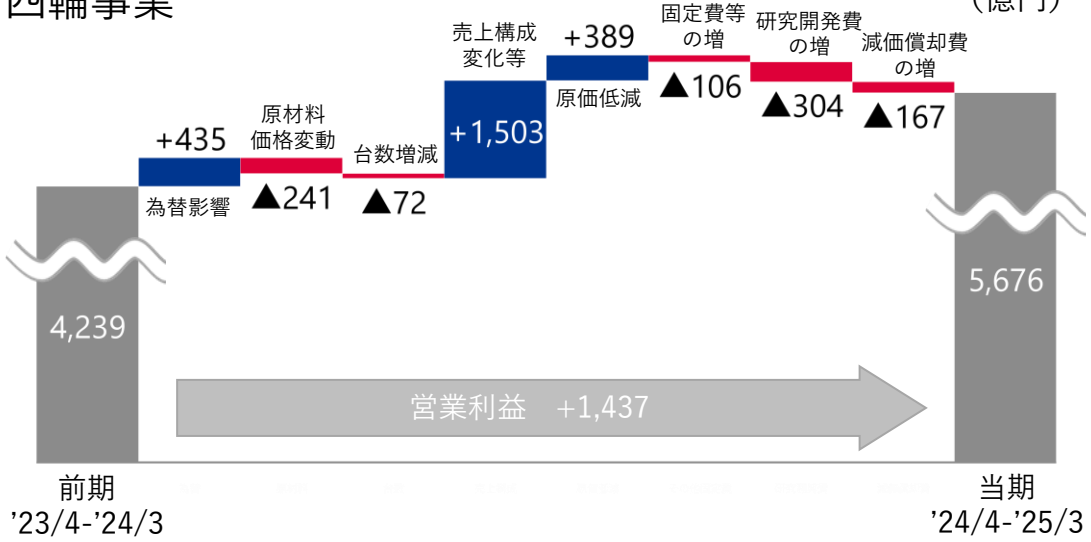
2025年3月期決算｜事業別業績、営業利益増減要因

（億円）

	’24/4-'25/3					’25/1-3				
	売上収益		営業利益			売上収益		営業利益		
		前期比		前期比	利益率		前期比		前期比	利益率
四　輪	53,052	+9%	5,676	+34%	10.7%	14,049	+1%	1,441	+38%	10.3%
二　輪	3,981	+9%	408	+4%	10.3%	1,029	+4%	97	▲13%	9.5%
マリン	1,097	▲2%	306	+11%	27.9%	302	+8%	83	+39%	27.5%
その他	121	+8%	38	+13%	31.5%	36	+29%	10	+23%	27.7%
連結 計	58,252	+9%	6,429	+30%	11.0%	15,414	+1%	1,631	+33%	10.6%

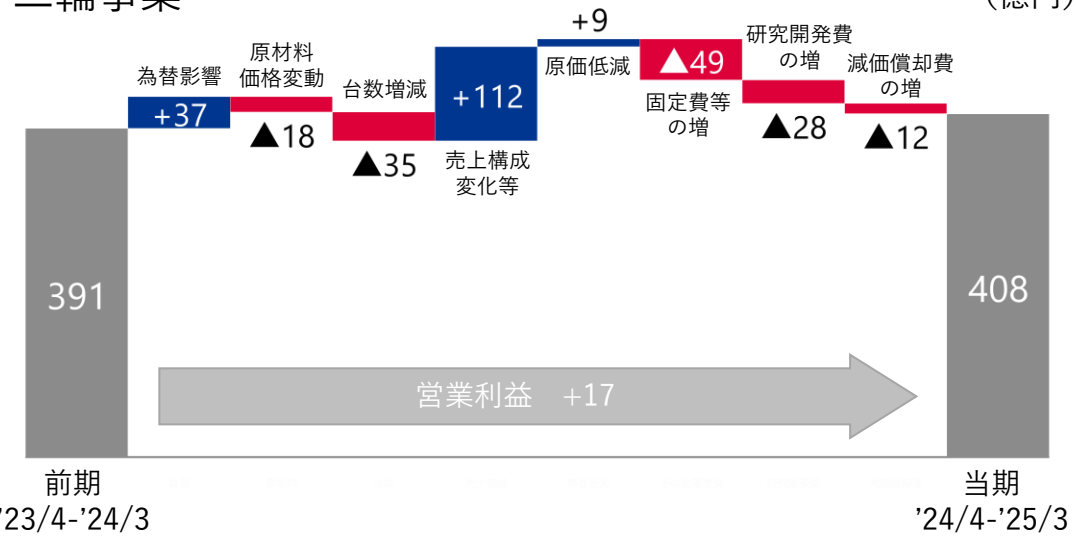
四輪事業

（億円）



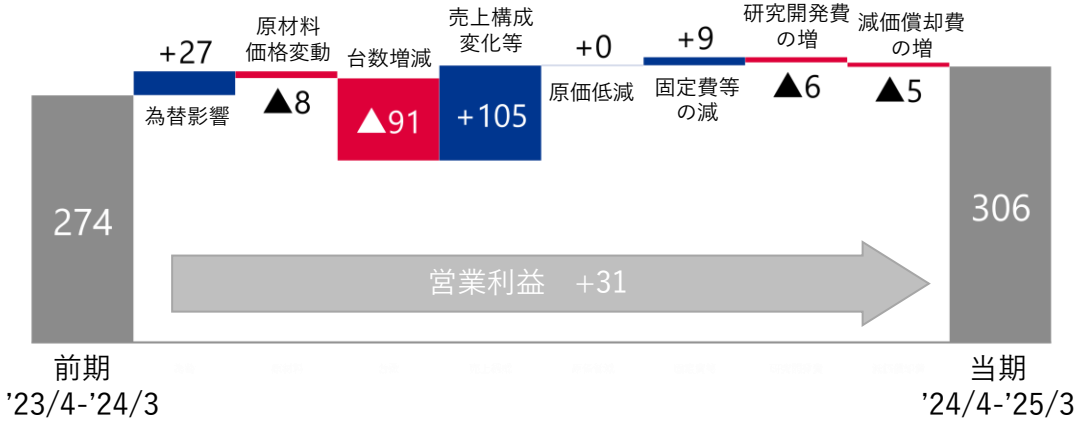
二輪事業

（億円）



マリン事業

（億円）



© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

2025年3月期決算｜所在地別業績、営業利益増減要因

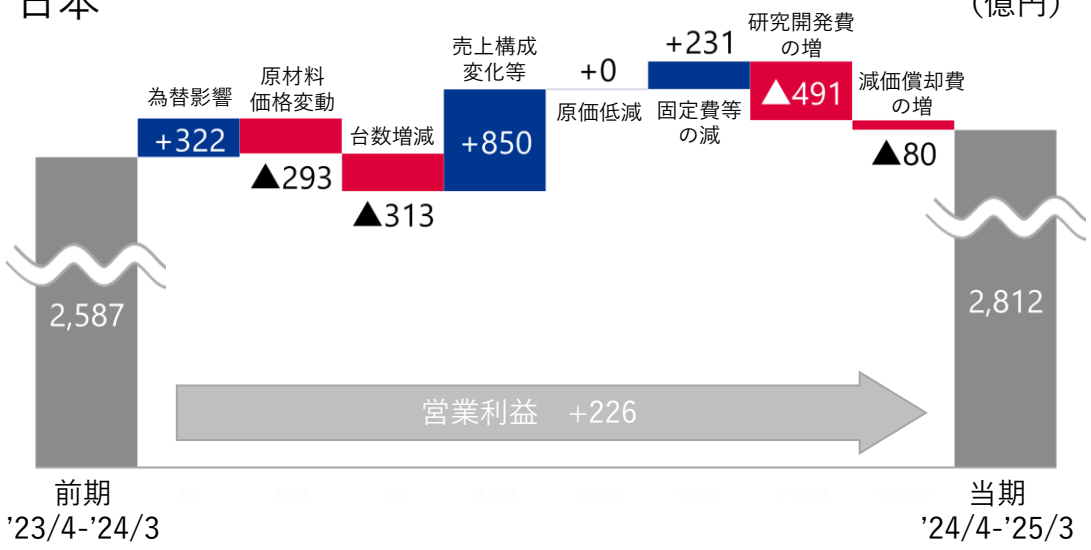
所在地セグメント別業績

（億円）

	’24/4-’25/3					’25/1-3				
	売上収益		営業利益			売上収益		営業利益		
		前年比		前年比	利益率		前年比		前年比	利益率
日　本	29,044	+3%	2,812	+9%	9.7%	7,413	▲6%	574	+20%	7.7%
欧　州	7,993	▲13%	140	▲42%	1.7%	2,035	▲17%	57	▲16%	2.8%
アジア	32,711	+11%	3,041	+17%	9.3%	8,699	+6%	778	+12%	8.9%
その他	4,572	+13%	132	+19%	2.9%	1,190	+7%	47	+200%	3.9%
セグメント間消去	▲16,069	–	304	–	–	▲3,922	–	176	–	–
連結計	58,252	+9%	6,429	+30%	11.0%	15,414	+1%	1,631	+33%	10.6%

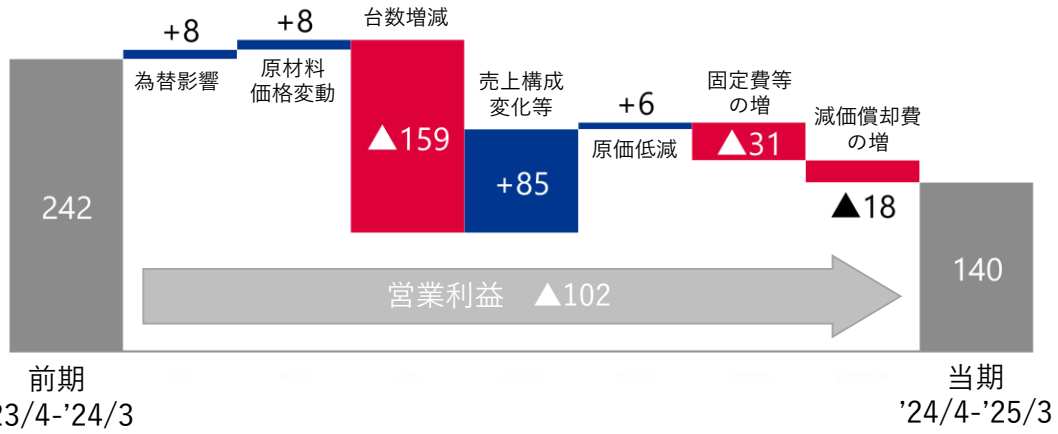
日本

（億円）



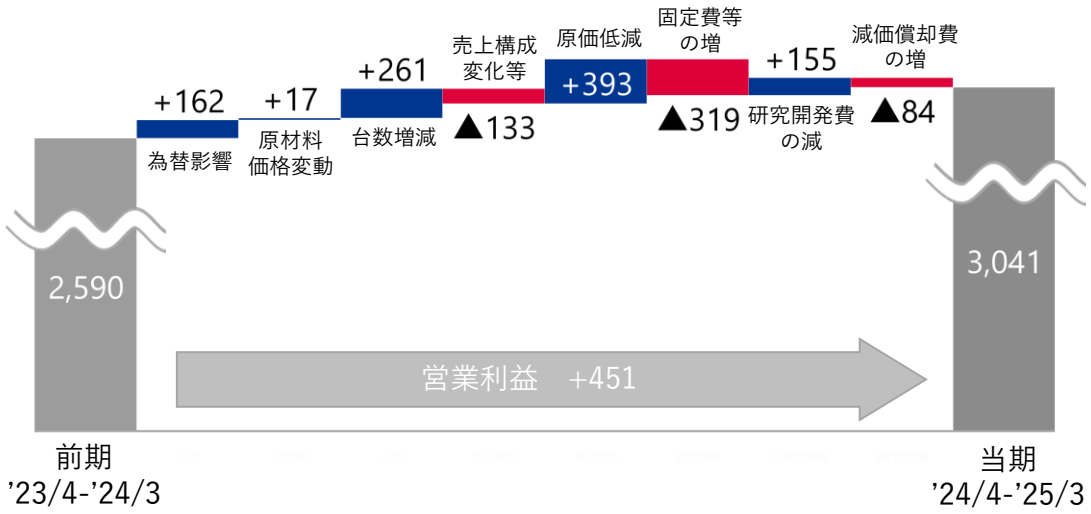
欧州

（億円）



アジア

（億円）



© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

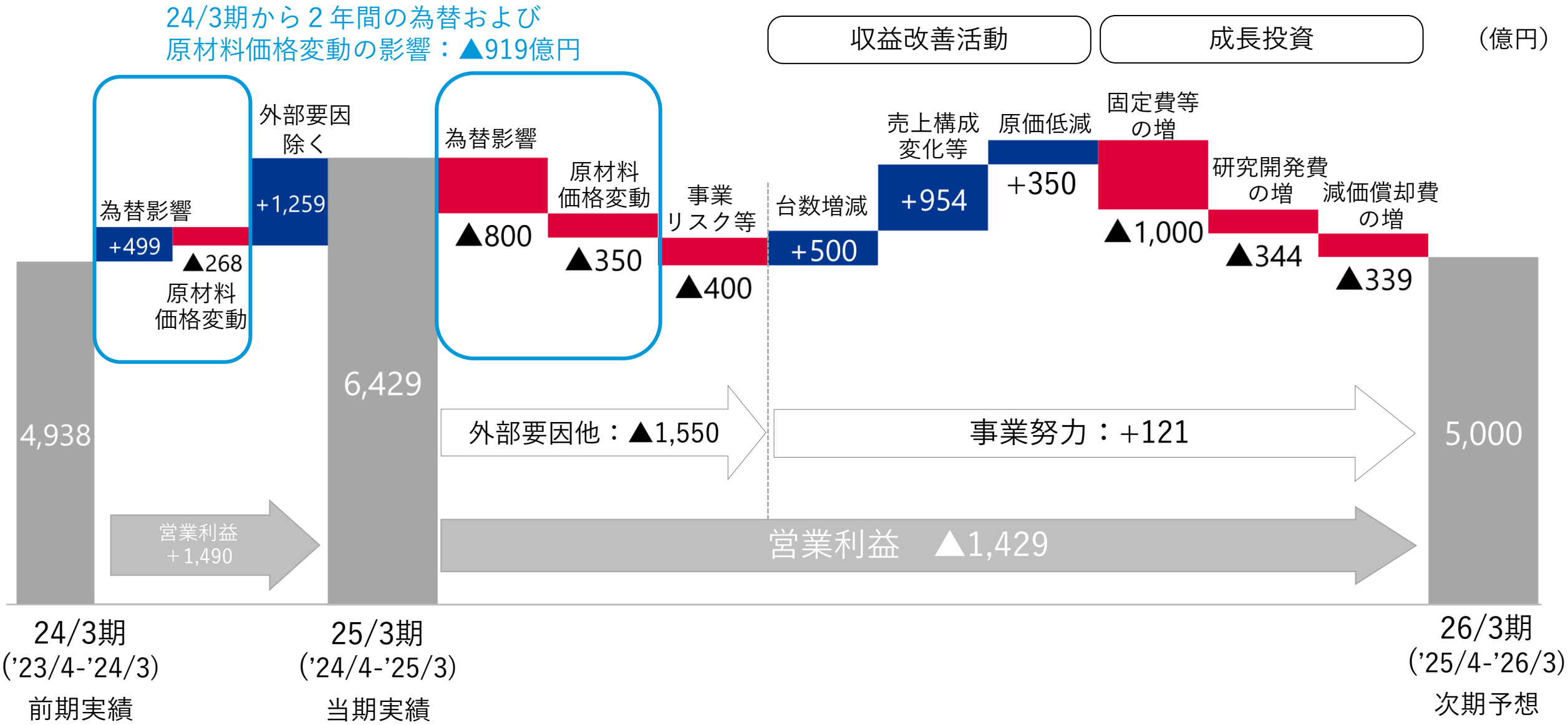
通期業績予想｜総括

（億円）		次期予想 ('25/4-'26/3)	当期実績 ('24/4-'25/3)	増　減	増減率	補足
連結業績	売上収益	61,000	58,252	＋2,748	＋4.7%	5期連続増収
	営業利益 （利益率）	5,000 (8.2%)	6,429 (11.0%)	▲1,429	▲22.2%	4期ぶり減益
	税引前利益 （利益率）	5,800 (9.5%)	7,302 (12.5%)	▲1,502	▲20.6%	6期ぶり減益
	当期利益※1 （利益率）	3,200 (5.2%)	4,161 (7.1%)	▲961	▲23.1%	6期ぶり減益
為替レート	米ドル	140円	153円	▲13円	▲8.3%	
	ユーロ	160円	164円	▲4円	▲2.4%	
	インドルピー	1.68円	1.82円	▲0.14円	▲7.7%	
世界販売	四輪車	3,324千台	3,240千台	＋83千台	＋2.6%	
	二輪車	2,078千台	2,064千台	＋14千台	＋0.7%	
配当	1株当たり年間配当	45円	41円	＋4円	＋9.8%	

※1 当期利益は親会社の所有者に帰属する当期利益

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

通期業績予想｜営業利益増減要因・対 25/3期実績

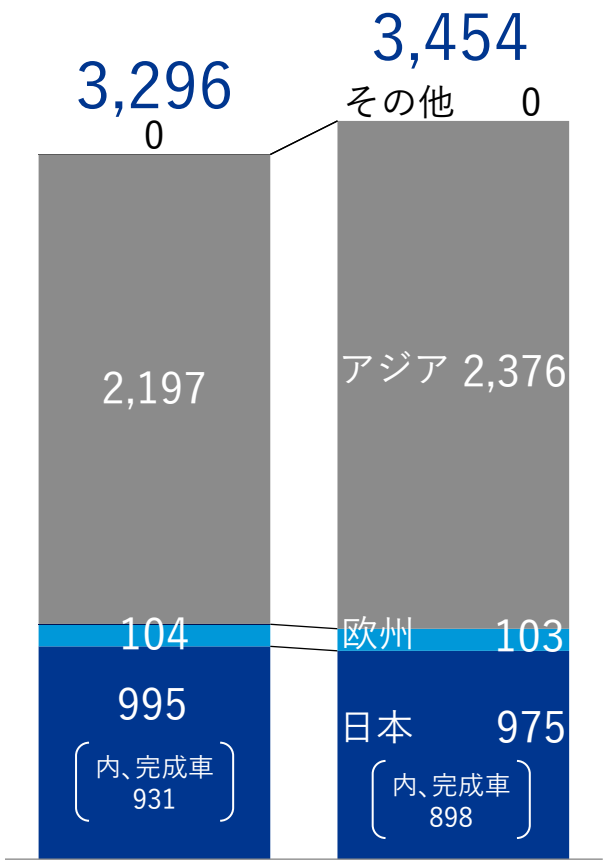


© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

通期業績予想｜四輪生産台数・販売台数

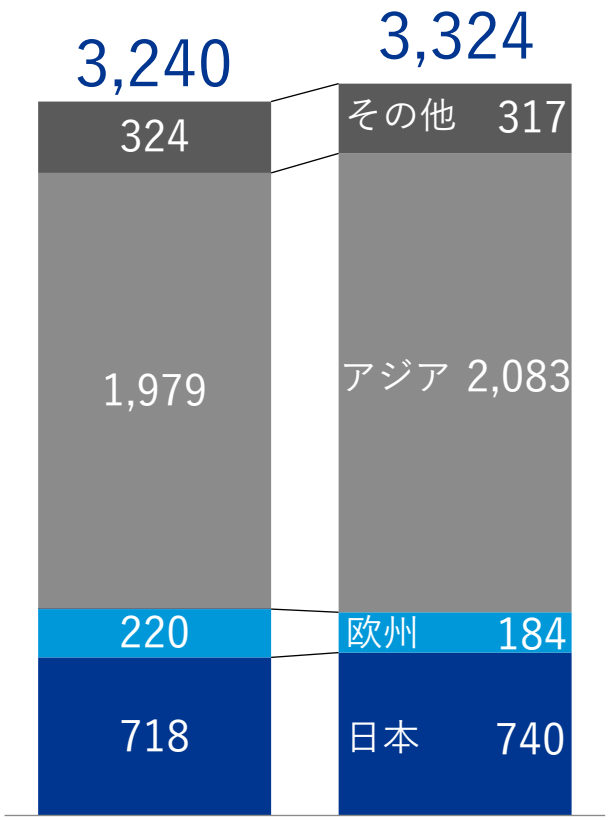
生産台数

+158（+4.8%）（千台）



販売台数

+83（+2.6%）（千台）



●生産台数

（千台）	当期実績	次期予想	増減	増減率
世界生産	3,296	3,454	+158	+4.8%
日本	995	975	▲20	▲2.0%
欧州	104	103	▲1	▲1.0%
アジア	2,197	2,376	+179	+8.1%
その他	0	0	+0	+101.9%

●販売台数

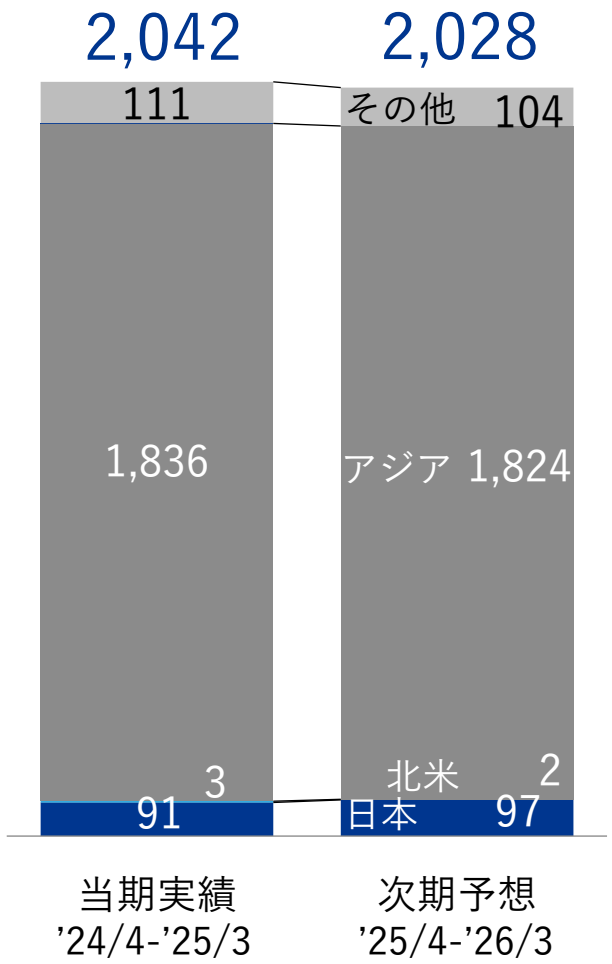
（千台）	当期実績	次期予想	増減	増減率
世界販売	3,240	3,324	+83	+2.6%
日本	718	740	+22	+3.1%
欧州	220	184	▲36	▲16.4%
アジア	1,979	2,083	+104	+5.3%
その他	324	317	▲7	▲2.2%

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

通期業績予想｜二輪生産台数・販売台数

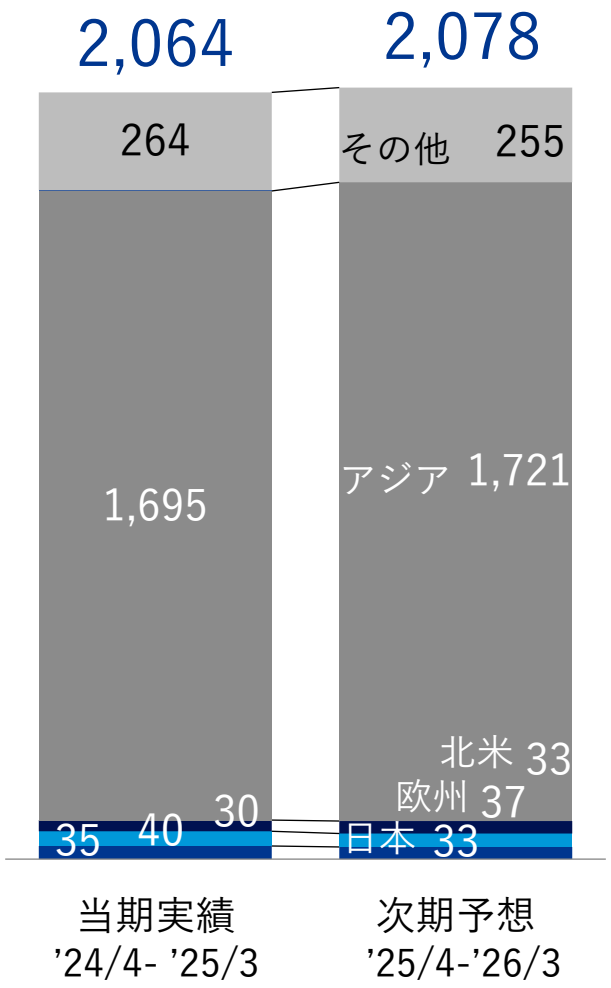
生産台数

▲14（▲0.7%）（千台）



販売台数

+14（+0.7%）（千台）



●生産台数

（千台）	当期実績	次期予想	増減	増減率
世界生産	2,042	2,028	▲14	▲0.7%
日本	91	97	+7	+7.4%
北米	3	2	▲2	▲48.0%
アジア	1,836	1,824	▲12	▲0.7%
その他	111	104	▲7	▲6.2%

●販売台数

（千台）	当期実績	次期予想	増減	増減率
世界販売	2,064	2,078	+14	+0.7%
日本	35	33	▲3	▲8.4%
欧州	40	37	▲3	▲7.1%
北米	30	33	+3	+11.1%
アジア	1,695	1,721	+26	+1.5%
その他	264	255	▲9	▲3.5%

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

将来予想に関する注意事項

- このプレゼンテーション資料に記載した将来予想は、 現時点で入手可能な情報及び仮定に基づき当社が判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
- 実際には、様々な要因の変化により大きく異なることがありえますことをご承知おき下さい。
- 実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済情勢及び需要の動向、為替相場の変動などが含まれます。